

社会資本総合整備計画（市街地整備）

平成27年2月2日

計画の名称	12 横浜市における水・みどり環境の保全と創造									
計画の期間	平成25年度 ～ 平成28年度（4年間）	交付対象	横浜市							
計画の目標	横浜市の緑の七大拠点と横浜の主な河川とを結ぶ水と緑のネットワークの拡充を図るため、緑地、水辺、農地、歴史的建造物等の地域資源を最大限に活用しながら、市民と協働して里山の自然環境を楽しみ、体験、学習、交流するための空間を保全・創造するとともに、地域の環境アメニティの向上、レクリエーションの場の創出を図ることで、地域の活性化を促進します。									
計画の成果目標（定量的指標）	樹林地保全制度等により積極的に地区指定を進め、緑の減少に歯止めをかけ、環境資源を保全します。H23 261.3ha → H28 316.1ha） 市民の憩いの場や活動の拠点としての水辺環境整備を進めます。（H25 35箇所→H28 39箇所）									
定量的指標の定義及び算定式			定量的指標の現況値及び目標値							
			当初現況値 (H23当初)	中間目標値	最終目標値 (H28末)					
	港南区日野地区（第2期）都市再生整備計画外6計画における緑地保全制度による指定面積等		261.3ha		316.1ha					
	横浜市における水辺拠点整備箇所数		(H25当初) 35箇所		(H28末) 39箇所					
全体事業費	合計 (A+B+C)	9,910百万円	A	9,910百万円（うち提案事業分477.6百万円）	B	0百万円	C	0百万円	効果促進事業費の割合 (A（提案分）+C）／（A+B+C）	4.8%

交付対象事業

A1 基幹事業

番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接 間接	事業者	要素となる事業名 (事業箇所)	事業内容 (延長・面積等)	市町村名	事業実施期間（年度）				全体事業費 (百万円)	備考
									H25	H26	H27	H28		
12-A-1	都市再生	一般	横浜市	直接	横浜市	港南区日野地区（第2期）都市再生整備計画事業	河川、緑地等 489ha	横浜市					485	別添1
12-A-2	都市再生	一般	横浜市	直接	横浜市	阿久和・宮沢地区（第2期）都市再生整備計画事業	緑地、広場等 1,022ha	横浜市					340	別添2
12-A-3	都市再生	一般	横浜市	直接	横浜市	戸塚区舞岡川周辺地区（第2期）都市再生整備計画事業	道路、河川、緑地等 451ha	横浜市					3,631	別添3
12-A-4	都市再生	一般	横浜市	直接	横浜市	黒須田川周辺地区（第2期）都市再生整備計画事業	緑地、広場等 917ha	横浜市					523	別添4
12-A-5	都市再生	一般	横浜市	直接	横浜市	三保・新治周辺地区都市再生整備計画事業	公園、緑地等 657ha	横浜市					945	別添5
12-A-6	都市再生	一般	横浜市	直接	横浜市	北寺尾・獅子ヶ谷周辺地区都市再生整備計画事業	公園、緑地等 943ha	横浜市					2,325	別添6
12-A-7	都市再生	一般	横浜市	直接	横浜市	飯島・金井周辺地区都市再生整備計画事業	公園、緑地等 331ha	横浜市					1,661	別添7
合計												9,910		

B 関連社会資本整備事業

番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接 間接	事業者	要素となる事業名	事業内容 (延長・面積等)	市町村名	事業実施期間（年度）				全体事業費 (百万円)	備考
									H25	H26	H27	H28		
合計												0		

番号	一体的に実施することにより期待される効果	備考

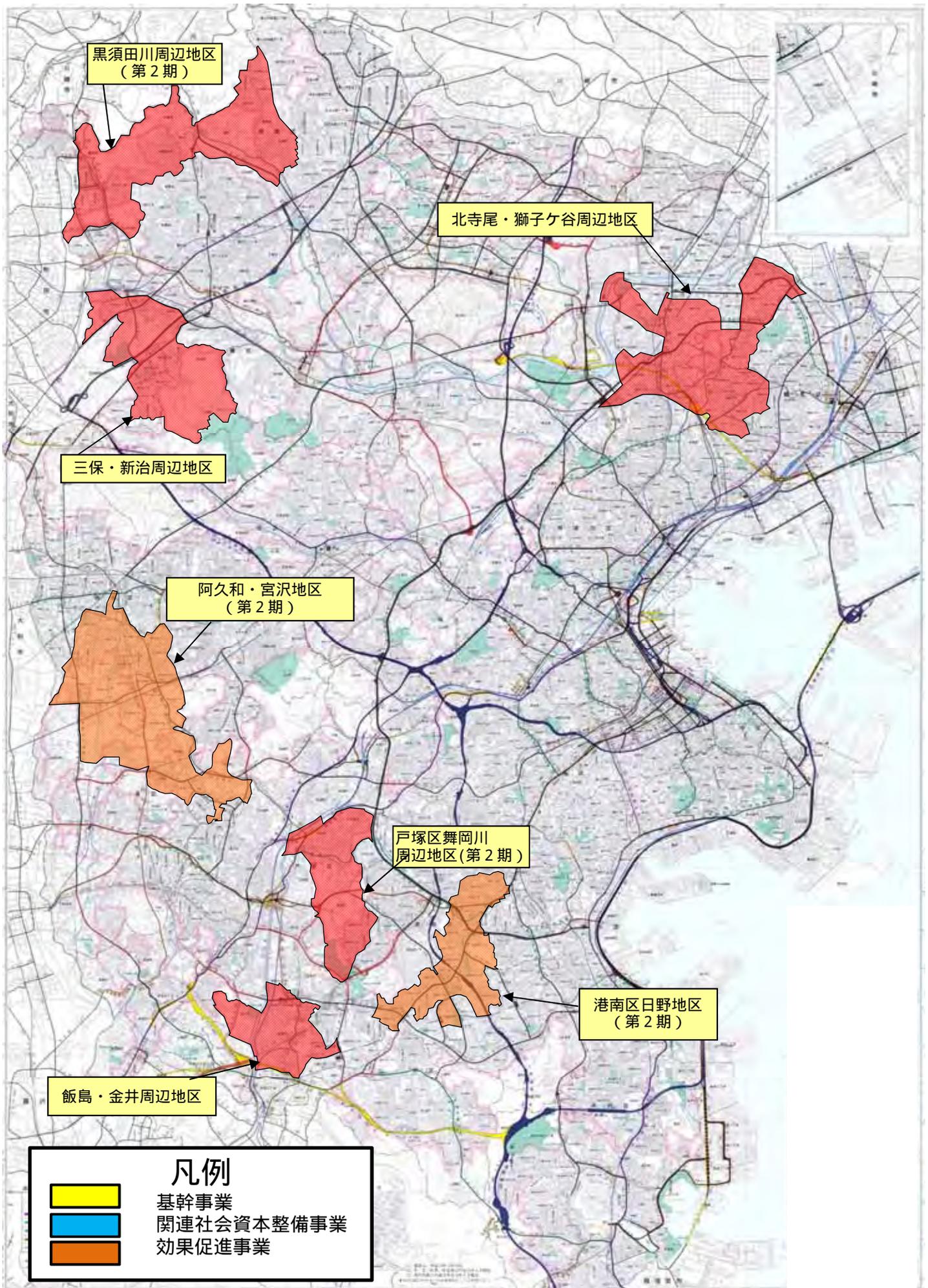
C 効果促進事業

番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接 間接	事業者	要素となる事業名	事業内容	市町村名 港湾・地区名	事業実施期間（年度）				全体事業費 (百万円)	備考
									H25	H26	H27	H28		
合計												0		

番号	一体的に実施することにより期待される効果	備考
1		
2		

(参考図面) 市街地整備

計画の名称	12 横浜市における水・みどり環境の保全と創造	交付対象	横浜市
計画の期間	平成25年度 ~ 平成28年度 (4年間)		



都市再生整備計画(第3回変更)

港南区白野地区(第2期)

神奈川県 横浜市

平成27年2月

都市再生整備計画の目標及び計画期間

都道府県名	神奈川県	市町村名	横浜市	地区名	こうなんくひのちくたいにき 港南区日野地区(第2期)	面積	489 ha
計画期間	平成 18 年度 ~ 平成 27 年度	交付期間	平成 23 年度 ~ 平成 27 年度				

目標 ・地区内を流れる日野川の治水安全度を向上させる ・日野川を活かした水のネットワークと、日野公園墓地、日野中央公園などとの緑のネットワークを形成する ・市民協働でまちづくりを進める
目標設定の根拠 まちづくりの経緯及び現況 港南区は、上大岡駅周辺を核として商業・業務・文化が集積し、横浜市の副都心として位置づけられている。区内の道路としては、県道横浜鎌倉線が交通ネットワークの重要な動脈として縦断している。また、鉄道では、京浜急行及び市営地下鉄が縦断し、区南部においてはJR根岸線が横断している。水のネットワークとしては、大岡川を動脈として、上大岡駅付近で大岡川(笹下川)と日野川とが合流している。この下流では、神奈川県により環境整備が進められ、市民の憩いの場として市民に広く利用されている。 都市再生整備計画(第1期)では、日野川の改修が進められ、治水安全度が向上するとともに、日野川沿いの通路や流域に点在する公園等の整備が行われ、「水のネットワークと緑のネットワークの形成」という目標に対して一定の成果が得られている。 都市再生整備計画(第2期)では、第1期計画を引きつぎ、未完成である日野川の改修を行って治水安全度を高めるとともに、低水路や川沿いの通路などの河川周辺環境の整備を行い、また、地区内の既存緑地を保全することで、水と緑のネットワークを充実させる。
課題 自転車や歩行者の快適な空間が求められている 近年台風などの大雨時には浸水被害が発生しているため、早期の河川改修が望まれている
将来ビジョン(中長期) 横浜市都市計画マスタープラン・港南区プラン(H17年7月) 河川周辺環境を保全するとともに、河川を活用した親水空間のネットワークを形成する

目標を定量化する指標							
指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値	基準年度	目標値	目標年度
河川の流下能力	m ³ /秒	1秒間に流下する河川水量	河川整備により日野川の流下能力を向上させることで、50mm/hの降雨に対し、川の水が溢れず安全に流れるようになる	58	H22	90	H27
水のネットワーク整備量	m	河川沿い通路の舗装路延長	河川沿いの通路を整備することにより、水と緑のネットワークを進める	1120	H22	1420	H27

都市再生整備計画の整備方針等

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<ul style="list-style-type: none"> ・洪水からの安全度を高める 	河川事業(総合流域防災事業 準用河川改修事業 準用河川日野川)
<ul style="list-style-type: none"> ・歩行者と自転車交通の快適性と利便性を図る 	高質空間形成施設(日野川プロムナード整備事業)
<ul style="list-style-type: none"> ・水と緑のネットワークを創出する 	河川事業(総合流域防災事業 準用河川改修事業 準用河川日野川) 高質空間形成施設(日野川プロムナード整備事業) 地域生活基盤施設(港南一丁目緑地整備事業) 事業活用調査(日野川整備検討調査)
その他	

交付対象事業等一覧表

交付対象事業費	898	交付限度額	359.2	国費率	0.4
うち、社会資本整備総合交付金対象事業 計	806	うち、社会資本整備総合交付金対象事業 計	322.32		
うち、地域自主戦略交付金対象事業 計	92	うち、地域自主戦略交付金対象事業 計	36.88		

(金額の単位は百万円)

事業		事業箇所名	事業主体	直/間	規模	(参考)事業期間		交付期間内事業期間		(参考)全体事業費	交付期間内事業費	うち官負担分	うち民負担分	交付対象事業費
細項目	開始年度					終了年度	開始年度	終了年度						
道路														
公園														
古都及び緑地保全事業														
河川	総合流域防災事業	準用河川改修事業 準用河川日野川	横浜市	直	620m	平成1年度	平成32年度	平成23年度	平成27年度	2,400	597	597		597
下水道		—			—									
駐車場有効利用システム		—			—									
地域生活基盤施設		港南一丁目緑地整備事業	横浜市	直	0.6ha	平成24年度	平成26年度	平成24年度	平成26年度	155	155	155		155
高質空間形成施設		日野川プロムナード整備事業	横浜市	直	620m	平成20年度	平成32年度	平成23年度	平成27年度	166	42	42		42
高次都市施設		—			—									
既存建造物活用事業														
土地区画整理事業														
市街地再開発事業														
住宅街区整備事業														
地区再開発事業														
バリアフリー環境整備促進事業														
優良建築物等整備事業														
住宅市街地総合整備事業	拠点開発型													
	沿道等整備型													
	密集住宅市街地整備型													
	耐震改修促進型													
街なみ環境整備事業														
住宅地区改良事業等														
都心共同住宅供給事業														
公営住宅等整備														
都市再生住宅等整備														
防災街区整備事業														
合計										2,721	794	794	0	794

基幹事業②地域自主戦略交付金

事業		事業箇所名	事業主体	直/間	規模	(参考)事業期間		交付期間内事業期間		(参考)全体事業費	交付期間内事業費	うち官負担分	うち民負担分	交付対象事業費
細項目	開始年度					終了年度	開始年度	終了年度						
道路														
公園														
河川	総合流域防災事業	準用河川改修事業 準用河川日野川	横浜市	直	620m	平成1年度	平成32年度	平成24年度	平成24年度	2,400	92	92		92
下水道		—			—									
合計										2,400	92	92	0	92

※交付期間内事業期間は平成24年度以降を記載

※H24以降を記載

※H24以降分を記載

基幹事業 総計(①+②)

総計											886	886	0	886
----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	-----	-----	---	-----

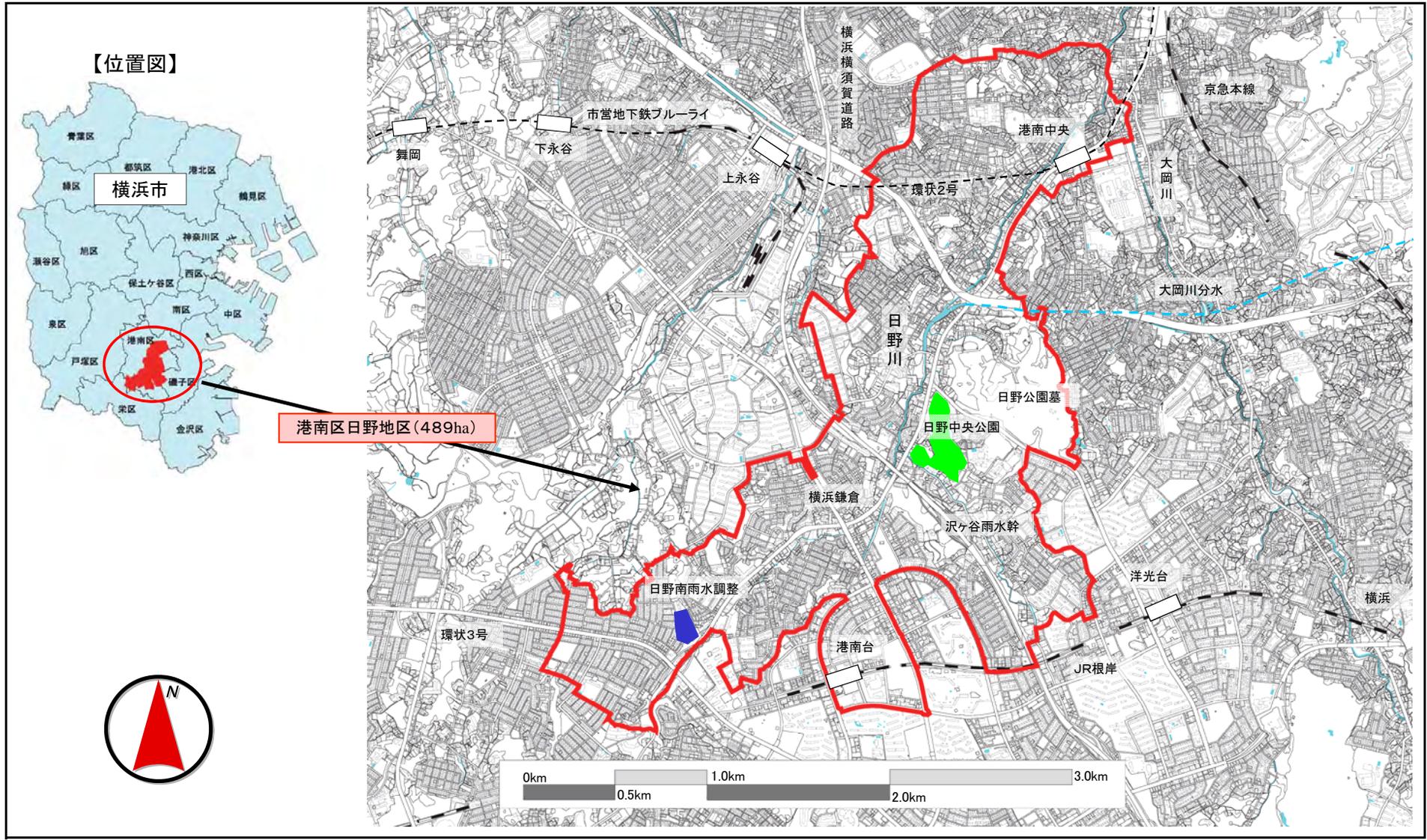
…A'

…A''

…A=A'+A''

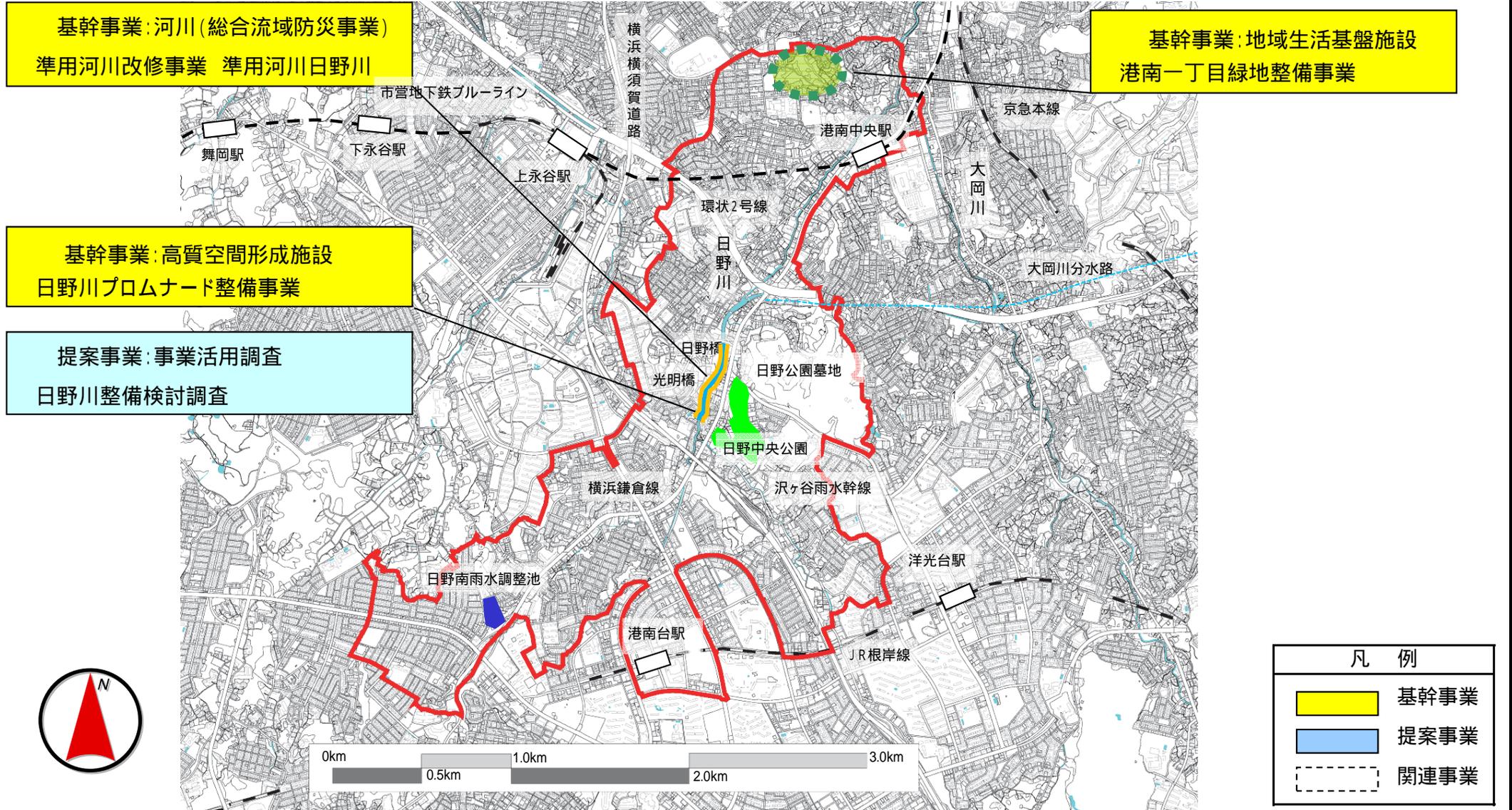
都市再生整備計画の区域

<p>港南区日野地区(第2期)(神奈川県横浜市)</p>	<p>面積 489 ha</p>	<p>区域 横浜市港南区日野二～九丁目、日野南一～六丁目、日野中央一～三丁目、 港南一～三丁目、港南中央通り、港南台一、三丁目</p>
------------------------------	------------------	---



港南区日野地区(第2期)(神奈川県横浜市) 整備方針概要図

目標	・地区内を流れる日野川の治水安全度を向上させる ・日野川を活かした水のネットワークと、日野公園墓地、日野中央公園などの緑のネットワークを形成する	代表的な指標	河川の流下能力 (m ³ /秒)	58	(H22年度)	90	(H27年度)
			水のネットワーク整備量 (m)	1120	(H22年度)	1420	(H27年度)
			()	()	()	()	



都市再生整備計画(第4回変更)

あくわ みやざわ ちく だいにき
阿久和・宮沢地区(第2期)

かながわけん よこはまし
神奈川県 横浜市

平成27年2月

都市再生整備計画の目標及び計画期間

都道府県名	神奈川県	市町村名	横浜市	地区名	阿久和・宮沢地区(第2期)	面積	1022 ha
計画期間	平成 18 年度 ~ 平成 27 年度	交付期間	平成 23 年度 ~ 平成 27 年度				

目標

阿久和川、和泉川、相沢川周辺の水と緑の環境資源を保全・活用し、これらをネットワーク化することで、誰もが身近に水と緑の環境を親しめる、安らぎのある生活環境を整備・保全する。

目標設定の根拠

まちづくりの経緯及び現況

阿久和・宮沢地区は、横浜市の西部、瀬谷区および泉区に位置し、川沿いの谷戸斜面を中心に緑地が連なって残る地域である。川沿いの樹林地は住宅開発などで年々減少する一方、緑地保全施策の推進や親しまれる水辺空間などの整備も進み、身近な自然に対する市民の意識も高まっている。

平成17年12月に策定された都市計画マスタープラン・瀬谷区プランにおいて、当該地区は「水と緑の南の拠点」に位置付けられており、まとまった緑と水の環境を将来にわたって整備・保全していく方針が定められている。また、地区の骨格をなす阿久和川・和泉川・相沢川とその周辺に連なる緑地は、「水と緑の基本軸」として、水と緑の環境に親しむことができる空間を確保することが定められている。平成17年2月に策定された都市計画マスタープラン・泉区プランでは、緑地や樹林地を、緑地保全地区や緑地保存地区といった制度などにより保全をしていくことが定められている。

こうした水と緑のまちづくりを実現するため、平成18年度から平成22年度の期間で都市再生整備計画(第1期)を策定し、和泉川に隣接する緑地の整備・保全、流域に点在する公園・広場の整備、また、和泉川や阿久和川における親水拠点の整備などをおこなってきた。その結果、地区の東側を中心に、水と緑を身近に感じられる安らぎのある生活環境の整備・保全について一定の成果を得た。

一方、地区の西側では、用地買収の難航等により事業の進捗が遅れ、水と緑を身近に感じられる施設の整備・保全が未完成のまま残ってしまった。都市再生整備計画(第2期)では、地区の西側、特に相沢川を中心とした地域で残された水辺広場の整備、歩行者ネットワークの整備をおこなうとともに、地区の南側に残る既存緑地の保全を行い、水と緑を身近に感じられる安らぎのある生活環境づくりの実現を目指す。

課題

- 1 地区の骨格となる河川に親しむための親水拠点の拡充が求められている。
- 2 地域資源に親しめるよう、緑地や親水拠点を結ぶ歩行者ネットワークの整備が求められている。
- 3 将来も緑が身近に感じられるよう、緑地の保全を推進していく必要がある。

将来ビジョン(中長期)

■都市計画マスタープラン・瀬谷区プラン(平成17年12月)

【目標】 身近な水と緑が育む、安らぎのある暮らしのまち

【まちづくり方針】

- ①水と緑の基本軸づくり：川と周辺に連なる緑地をネットワークすることによって、誰もが身近な水と緑の環境に親しめるようにするとともに、地域の歴史的な環境や固有のたたずまいを整備・保全する。
- ②水と緑の2大拠点づくり：まとまった緑と水の環境のある南の地域は、土地所有者の協力を得ながら、将来にわたって整備・保全を進めるとともに、利用しやすくなるような取り組みをすすめる。

■都市計画マスタープラン・泉区プラン(平成17年2月)

【目標】 ゆとりと豊かさのあるまち

【まちづくり方針】

- ①環境保全：緑地や樹林地などは、緑地保全地区や市民の森、緑地保存地区などにより保全を図る。

目標を定量化する指標

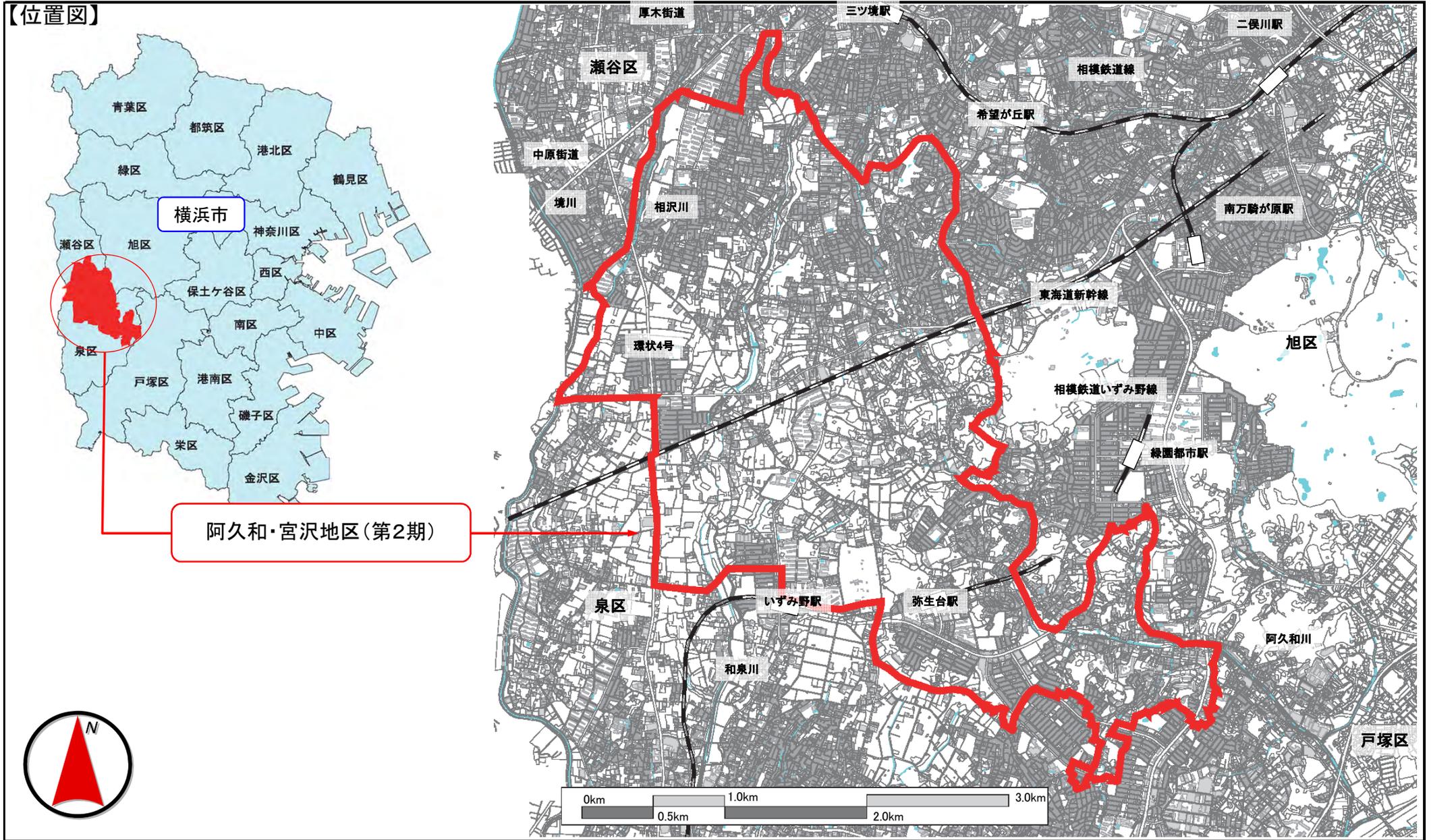
指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値	基準年度	目標値	目標年度
水辺愛護活動への参加者数	人/年	相沢川の愛護活動に参加する人の数	相沢川水辺広場等の整備により、水と緑に親しめる環境が創出されたことを、水辺愛護活動に参加する人の数により評価する。	365	H21年度	365	H27年度
ブルムナード利用者数	人/9h	相沢川沿いの通路を通行する歩行者の数	相沢川ブルムナード等の整備により、歩行者ネットワークの形成が図られていることを歩行者交通量により評価する。	167	H22年度	183	H27年度
緑の保全活動人数	人/年	緑の拠点で保全活動を行った人数	緑地整備事業により、緑を身近に感じることでできる環境が拡充されたことを、緑の保全・活用に係る活動状況を確認することで評価する。	25	H22年度	28	H27年度

都市再生整備計画の整備方針等

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<ul style="list-style-type: none"> ・水の拠点を整備する 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域生活基盤施設(相沢川水辺広場整備事業)
<ul style="list-style-type: none"> ・水と緑のネットワークを整備する 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域生活基盤施設(新橋緑地整備事業) ・地域生活基盤施設(相沢川水辺広場整備事業) ・高質空間形成施設(相沢川プロムナード整備事業)
<ul style="list-style-type: none"> ・緑地を保全する 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域生活基盤施設(新橋緑地整備事業)
<p>その他</p>	

都市再生整備計画の区域

阿久和・宮沢地区(第2期)(神奈川県横浜市)	面積 1022 ha	区域 瀬谷区宮沢一～四丁目、阿久和西一～四丁目、阿久和東一～四丁目、阿久和南一～四丁目、南瀬谷一～二丁目、下瀬谷一丁目、下瀬谷二丁目の一部、下瀬谷三丁目の一部、泉区弥生台、西が岡一丁目、桂坂、上飯田町の一部、和泉町の一部 ほか
------------------------	---------------	--



あくわ・みやざわちく(だい2き)(かながわけんよこはまし) せいびほうしんがいようず
阿久和・宮沢地区(第2期)(神奈川県横浜市) 整備方針概要図

目標	阿久和川、和泉川、相沢川周辺の水と緑の環境資源を保全・活用し、これらをネットワークすることで、誰もが身近に水と緑の環境を親しめる、安らぎのある生活環境を整備・保全する。	代表的な指標	水辺愛護活動への参加者数 (人/年)	365	(H21年度)	365	(H27年度)
			プロムナード利用者数 (人/9h)	167	(H22年度)	183	(H27年度)
			緑の保全活動人数 (人/年)	25	(H22年度)	28	(H27年度)

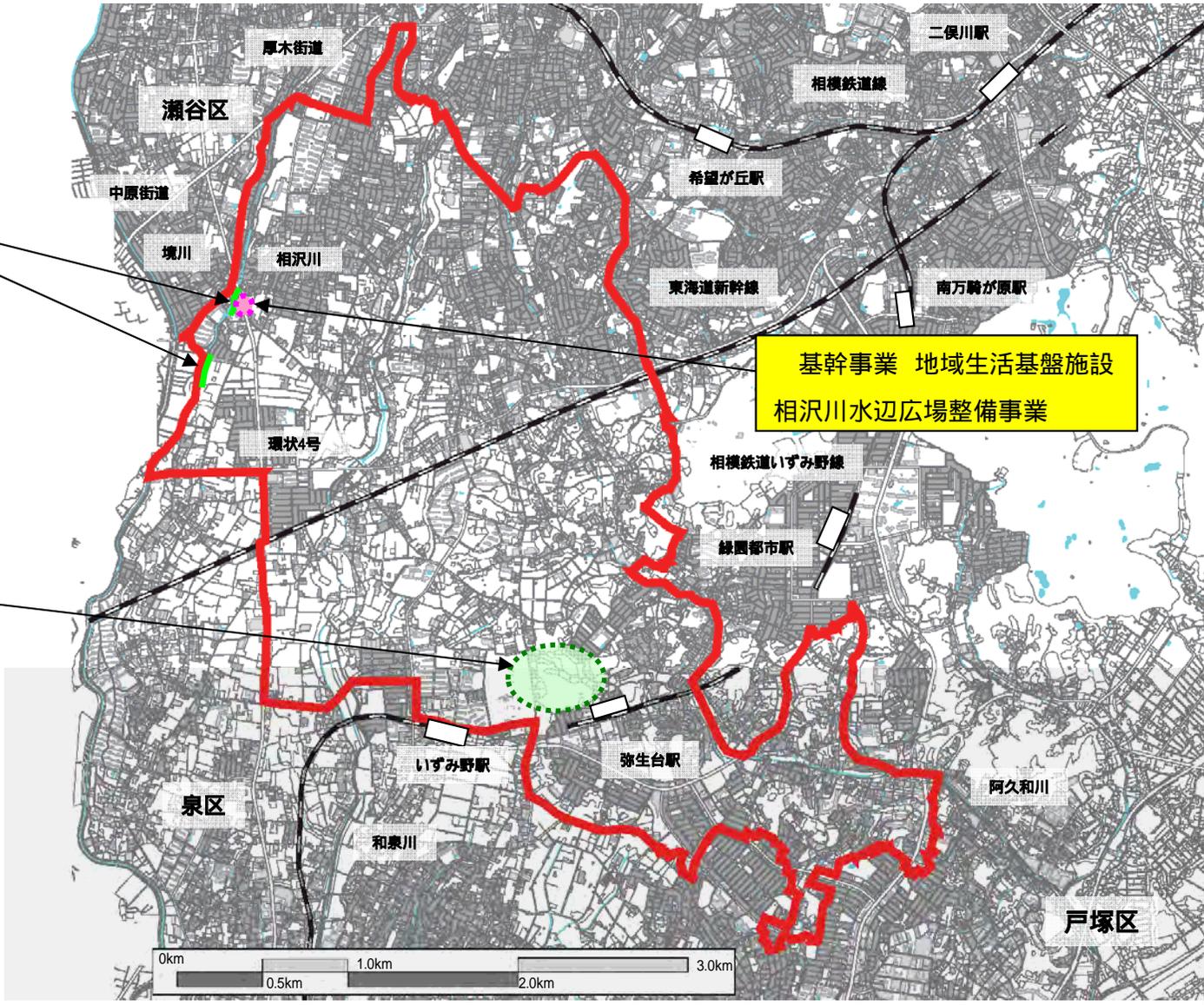


基幹事業 高質空間形成施設
 相沢川プロムナード整備事業

基幹事業 地域生活基盤施設
 新橋緑地整備事業

基幹事業 地域生活基盤施設
 相沢川水辺広場整備事業

凡 例	
	基幹事業
	提案事業
	関連事業



都市再生整備計画(第2回変更)

戸塚区舞岡川周辺地区(第2期)

神奈川県 横浜市

平成27年2月

都市再生整備計画の目標及び計画期間

都道府県名	神奈川県	市町村名	横浜市	地区名	戸塚区舞岡川周辺地区(第2期)	面積	451 ha
計画期間	平成 19 年度 ~ 平成 28 年度	交付期間	平成 24 年度 ~ 平成 28 年度				

目標 豊かな環境資源を活かしたまちづくり、誰もが暮らしやすい安全・安心のまちづくりを進める ①緑地の保全や水辺広場の整備を行い、魅力ある水・緑環境づくりを進める。 ②舞岡川沿いにプロムナードを整備し、歩行者ネットワークを拡充する ③舞岡川の治水安全度を向上させる
--

目標設定の根拠 まちづくりの経緯及び現況 <p>舞岡地区は、舞岡川や農地、山林などの豊かな自然に恵まれた地区であり、舞岡川を軸とした谷戸景観として、水田、畑地、ため池、雑木林、小川などの多様な環境要素がモザイク状に分布している。これらの自然環境は横浜市の「緑の七大拠点」のひとつに位置づけられている。一方、横浜市南西部の拠点として、市街地開発事業等を促進している戸塚駅に近接しているため、周辺での都市化の進行や都市計画道路の整備などにより、まちの変容が予想される。そのため、舞岡地区の将来の生活像を描き、地区のまちづくりの方向性を定める「舞岡地区まちづくりプラン」が策定され、豊かな環境資源を活かしたまちづくり、安全、安心に暮らせるまちづくり、利便性、快適性の高いまちづくりが基本目標として定められている。</p> <p>特に、舞岡地区の谷戸を流れる舞岡川は、舞岡公園や舞岡ふるさと村、市営地下鉄舞岡駅、舞岡リサーチパークといった地区内の主要施設や地区の北部から南部をつなぐ軸として重要な機能を担っており、舞岡の田園風景などの地域資源を活かした連続する歩行空間の整備が求められており、舞岡駅から南部には既に舞岡の水路と田園風景を活かした小川アメニティが形成されている。</p> <p>本計画では、駅北部の舞岡川沿いに連続したプロムナードの整備と水辺広場の整備を行うことで水辺に沿った心地よい歩行空間を形成するとともに、舞岡地区内の治水安全度を高め、市民にとって安全で安心できる生活環境を整えていく。</p> <p>こうしたまちづくりを実現するため、都市再生整備計画(第1期)では、安全、安心のまちづくりとして舞岡川の改修が進められた結果、治水安全度が向上した。</p> <p>都市再生整備計画(第2期)では、引き続き上流部の河川改修を行い治水安全度の向上を目指すと同時に、プロムナード及び水辺広場を整備し、河川に沿った歩行者ネットワークを形成する。また、既存の緑地を保全し、プロムナードおよび水辺広場とあわせ、魅力ある水・緑環境を拡充する。</p>

課題 1 周辺の都市化の進展を踏まえ、舞岡の環境資源を保全する必要がある。 2 安心・快適な歩行空間が求められている。 3 近年、多発する台風や豪雨による浸水被害を軽減する方策が求められている。

将来ビジョン(中長期) ■都市計画マスタープラン・舞岡地区プラン(平成12年1月) 【目標】豊かな環境と都市的な利便性との調和を踏まえ、より一層魅力的なまちをめざす。 【まちづくり方針】 ①豊かな環境資源を活かしたまちづくり：将来にわたりサステナブルな社会の実現につながるよう、自然環境や歴史資源などの環境資源を活かし、守り、育てていくまちづくりをめざす。 ②安全、安心に暮らせるまちづくり：子どもから高齢者、障害者など誰もが安心して暮らし、また、災害にも被害を最小限に止めるような安全に暮らしていけるまちをめざす。 ③利便性、快適性の高いまちづくり：歩行者にも快適な利便性の高いまちをめざす。 ■横浜水と緑の基本計画(平成18年12月) 【目標】横浜らしい水・緑環境の実現 【基本方針】 ①拠点となる緑、特徴ある緑をまもり・つくる ②流域ごとの水・緑環境をつくり・高める ③水と緑の環境を市民とともにつくり・楽しむ
--

目標を定量化する指標								
指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値		目標値		
					基準年度		目標年度	
樹林地の保全面積	ha	緑地保全制度による指定面積等	緑地保全制度に指定することにより、緑の減少に歯止めをかけ、環境資源を保全する。	32.5	平成23年度	32.7	平成28年度	
プロムナードへの歩行者移行率	%	舞岡川周辺道路の歩行者がプロムナードへ移行する割合	舞岡川プロムナードの整備により、快適で利便性の高い歩行空間が拡充されたことを、プロムナードへの歩行者移行率で評価する。	0	平成23年度	67	平成28年度	
舞岡川の流下能力	m3/秒	1秒間に流下する河川の水量	河川整備により治水安全度が向上されたかを、河川の流下能力で評価する。	10	平成23年度	30	平成28年度	

都市再生整備計画の整備方針等

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<ul style="list-style-type: none"> 魅力ある水・緑環境づくりのため、緑地の保全や水辺広場の整備を行う 	河川事業 総合流域防災事業(準用河川改修事業 準用河川舞岡川) 地域生活基盤施設(舞岡川水辺広場整備事業) 地域生活基盤施設(舞岡緑地整備事業) 公園事業 (仮称)舞岡緑地公園
<ul style="list-style-type: none"> 安心・快適な歩行空間のため、舞岡川沿いにプロムナードを整備する 	道路事業 舞岡橋架替拡幅 河川事業 総合流域防災事業(準用河川改修事業 準用河川舞岡川) 高質空間形成施設(舞岡川プロムナード整備事業)
<ul style="list-style-type: none"> 舞岡川の治水安全度を向上させる 	河川事業 総合流域防災事業(準用河川改修事業 準用河川舞岡川)
その他	

交付対象事業等一覧表

交付対象事業費	3,683	交付限度額	1473.2	国費率	0.4
うち、社会資本整備総合交付金対象事業 計	3,632	うち、社会資本整備総合交付金対象事業 計	1452.8		
うち、地域自主戦略交付金対象事業 計	51	うち、地域自主戦略交付金対象事業 計	20.4		

(金額の単位は百万円)

基幹事業①社会資本整備総合交付金

事業	細項目	事業箇所名	事業主体	直/間	規模	(参考)事業期間		交付期間内事業期間		(参考)全体事業費	交付期間内事業費	うち		交付対象事業費
						開始年度	終了年度	開始年度	終了年度			うち官負担分	うち民負担分	
道路	舞岡橋架替拡幅	舞岡橋	横浜市	直	1箇所	平成24年度	平成28年度	平成25年度	平成28年度	85	84	84	0	84
公園		(仮称)舞岡緑地公園	横浜市	直	11.5ha	平成25年度	平成28年度	平成25年度	平成28年度	2,900	2,900	2,900	0	2,900
古都及び緑地保全事業														
河川		準用河川改修事業 準用河川舞岡川	横浜市	直	450m	平成5年度	平成28年度	平成25年度	平成28年度	1,500	323	323	0	323
下水道		-			-									
駐車場有効利用システム		-			-									
地域生活基盤施設		舞岡緑地整備事業	横浜市	直	24ha	平成25年度	平成26年度	平成25年度	平成26年度	145	145	145	0	145
地域生活基盤施設										0	0	0	0	0
地域生活基盤施設		舞岡川水辺広場整備事業	横浜市	直	1箇所	平成20年度	平成28年度	平成24年度	平成28年度	392	98	98	0	98
高質空間形成施設		舞岡川プロムナード整備事業	横浜市	直	816m	平成27年度	平成28年度	平成27年度	平成28年度	80	80	80	0	80
高次都市施設														
既存建造物活用事業														
土地区画整理事業														
市街地再開発事業														
住宅街区整備事業														
地区再開発事業														
バリアフリー環境整備促進事業														
優良建築物等整備事業														
住宅市街地総合整備事業	拠点開発型 沿道等整備型 密集住宅市街地整備型 耐震改修促進型													
街なみ環境整備事業														
住宅地区改良事業等														
都心共同住宅供給事業														
公営住宅等整備														
都市再生住宅等整備														
防災街区整備事業														
合計										5,102	3,630	3,630	0	3,630

…A'

基幹事業②地域自主戦略交付金

事業	細項目	事業箇所名	事業主体	直/間	規模	(参考)事業期間		交付期間内事業期間		(参考)全体事業費	交付期間内事業費	うち		交付対象事業費
						開始年度	終了年度	開始年度	終了年度			うち官負担分	うち民負担分	
道路	舞岡橋架替拡幅	舞岡橋	横浜市	直	1箇所	平成24年度	平成26年度	平成24年度	平成24年度	85	1	1	0	1
公園														
河川	総合流域防災事業	準用河川改修事業 準用河川舞岡川	横浜市	直	450m	平成5年度	平成28年度	平成24年度	平成24年度	1,500	50	50	0	50
下水道		-			-									
合計										1,585	51	51	0	51

※交付期間内事業期間は平成24年度以降を記載

※H24以降を記載

※H24以降分を記載

…A''

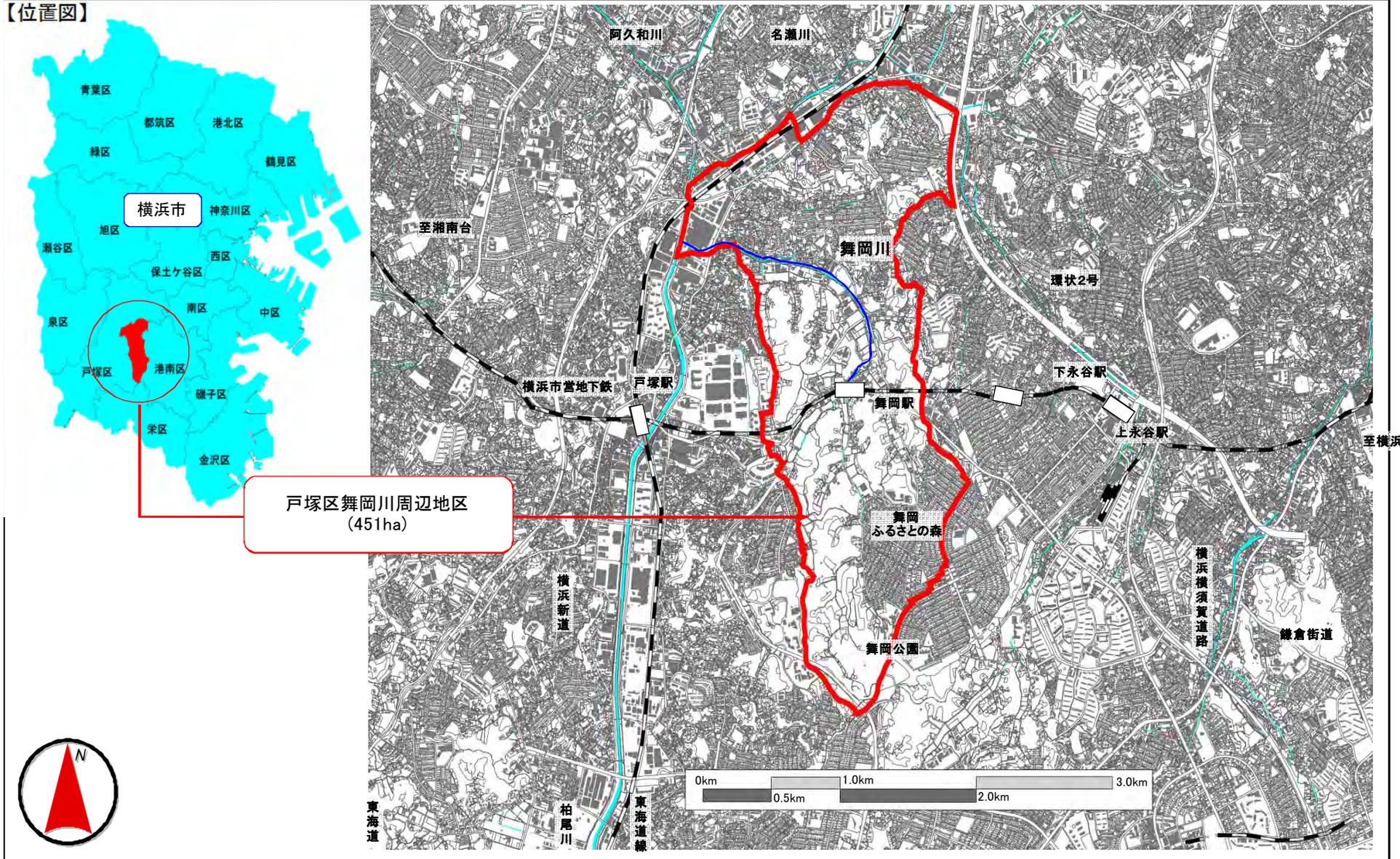
基幹事業 総計(①+②)

総計											3,681	3,681	0	3,681
----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	-------	-------	---	-------

…A'+A''

戸塚区舞岡川周辺地区(第2期)(神奈川県横浜市)	面積 451 ha	区域 横浜市戸塚区柏尾町、舞岡町、南舞岡町一～四丁目 及び 上柏尾町、吉田町、 港南区下永谷六丁目の一部
--------------------------	--------------	--

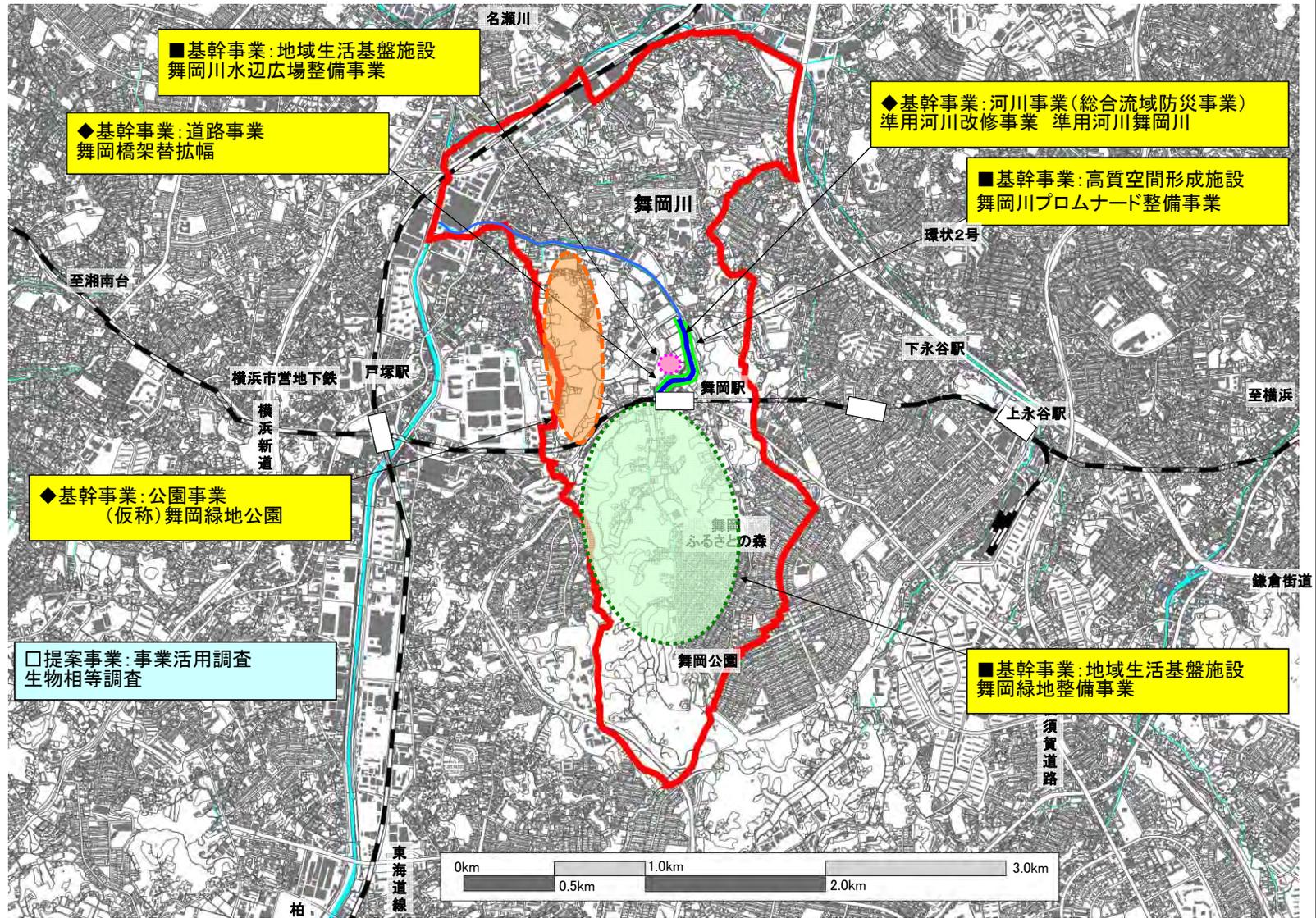
【位置図】



戸塚区舞岡川周辺地区
(451ha)

とつかくまいおかがわしゅうへんちくだいにきかながわけんよこはまし 戸塚区舞岡川周辺地区(第2期)(神奈川県横浜市) 整備方針概要図

目標	豊かな環境資源を活かしたまちづくり、誰もが暮らしやすい安全・安心のまちづくりを進める	代表的な指標	樹林地の保全面積 (ha)	32.5 (H23年度) → 32.7 (H28年度)
	①緑地の保全や水辺広場の整備を行い、魅力ある水・緑環境づくりを進める。		プロムナードへの歩行者移行率 (%)	0 (H23年度) → 67 (H28年度)
	②舞岡川沿いにプロムナードを整備し、歩行者ネットワークを拡充する		舞岡川の流下能力 (m ³ /秒)	10 (H23年度) → 30 (H28年度)
	③舞岡川の治水安全度を向上させる	阿久和川		



凡 例	
■ 基幹事業	
◆ 基幹事業(一括)	
□ 提案事業	
◇ 提案事業(一括)	
○ 関連事業	

都市再生整備計画(第3回変更)

くろすだ がわしゅうへん ちく だいに き
黒須田川周辺地区(第2期)

か な がわ けん よこ はま し
神奈川県 横浜市

平成27年2月

都市再生整備計画の整備方針等

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<ul style="list-style-type: none"> ・「水と緑のネットワーク」(緑豊かな川辺の散策路と樹林地が一体となったネットワーク)を拡充する 	高質空間形成施設(黒須田川プロムナード整備事業) 地域生活基盤施設(寺家緑地整備事業) 地域生活基盤施設(恩田緑地整備事業) 地域創造支援事業(黒須田川環境整備事業)
<ul style="list-style-type: none"> ・低水路や親水拠点の整備を通して、親しみやすい河川空間を形成する 	地域生活基盤施設(奈良川水辺広場整備事業) 高質空間形成施設(黒須田川プロムナード整備事業) 地域創造支援事業(黒須田川環境整備事業)
<ul style="list-style-type: none"> ・市民活動のネットワークづくりを進めるため、情報提供や様々な活動団体の交流を支援する場を提供する。 	地域創造支援事業(すずき野地域ケアプラザ(仮称)整備事業)
その他	

様式3 目標を達成するために必要な交付対象事業等に関する事項

交付対象事業費	632	交付限度額	252.8	国費率	0.4
---------	-----	-------	-------	-----	-----

(金額の単位は百万円)

事業	細項目	事業箇所名	事業主体	直/間	規模	(参考)事業期間		交付期間内事業期間		(参考)全体事業費	交付期間内事業費	うち官負担分	うち民負担分	交付対象事業費
						開始年度	終了年度	開始年度	終了年度					
道路														
公園														
古都及び緑地保全事業														
河川														
下水道														
駐車場有効利用システム														
地域生活基盤施設	寺家緑地整備事業	横浜市	横浜市	直	12ha	H24	H26	H24	H26	47	47	47	0	47
地域生活基盤施設	恩田緑地整備事業	横浜市	横浜市	直	6ha	H24	H26	H26	H26	210	210	210	0	210
地域生活基盤施設	奈良川水辺広場整備事業	横浜市	横浜市	直	1箇所	H24	H25	H24	H25	51	51	51	0	51
高質空間形成施設	黒須田川プロムナード整備事	横浜市	横浜市	直	L=826m	H18	H28	H24	H28	382	148	148	0	148
高次都市施設														
中心拠点誘導施設														
生活拠点誘導施設														
既存建造物活用事業(中心拠点誘導施設)														
土地区画整理事業														
市街地再開発事業														
住宅街区整備事業														
地区再開発事業														
バリアフリー環境整備事業														
優良建築物等整備事業														
住宅市街地総合整備事業	拠点開発型 沿道等整備型 密集住宅市街地整備型 耐震改修促進型													
街なみ環境整備事業														
住宅地区改良事業等														
都心共同住宅供給事業														
公営住宅等整備														
都市再生住宅等整備														
防災街区整備事業														
合計										690	456	456	0	456

…A

提案事業(継続地区の場合のみ記載)														
事業	細項目	事業箇所名	事業主体	直/間	規模	(参考)事業期間		交付期間内事業期間		(参考)全体事業費	交付期間内事業費	うち官負担分	うち民負担分	交付対象事業費
						開始年度	終了年度	開始年度	終了年度					
地域創造支援事業	黒須田川環境整備事業	黒須田川	横浜市	直	L=554m	H18	H28	H25	H25	145	14	14	0	14
地域創造支援事業	すすき野地域ケアプラザ(仮称)	すすき野	横浜市	直	延床480㎡	H26	H28	H26	H28	162	162	162	0	162
事業活用調査														
まちづくり活動推進事業														
合計										307	176	176	0	176

104
237

…B

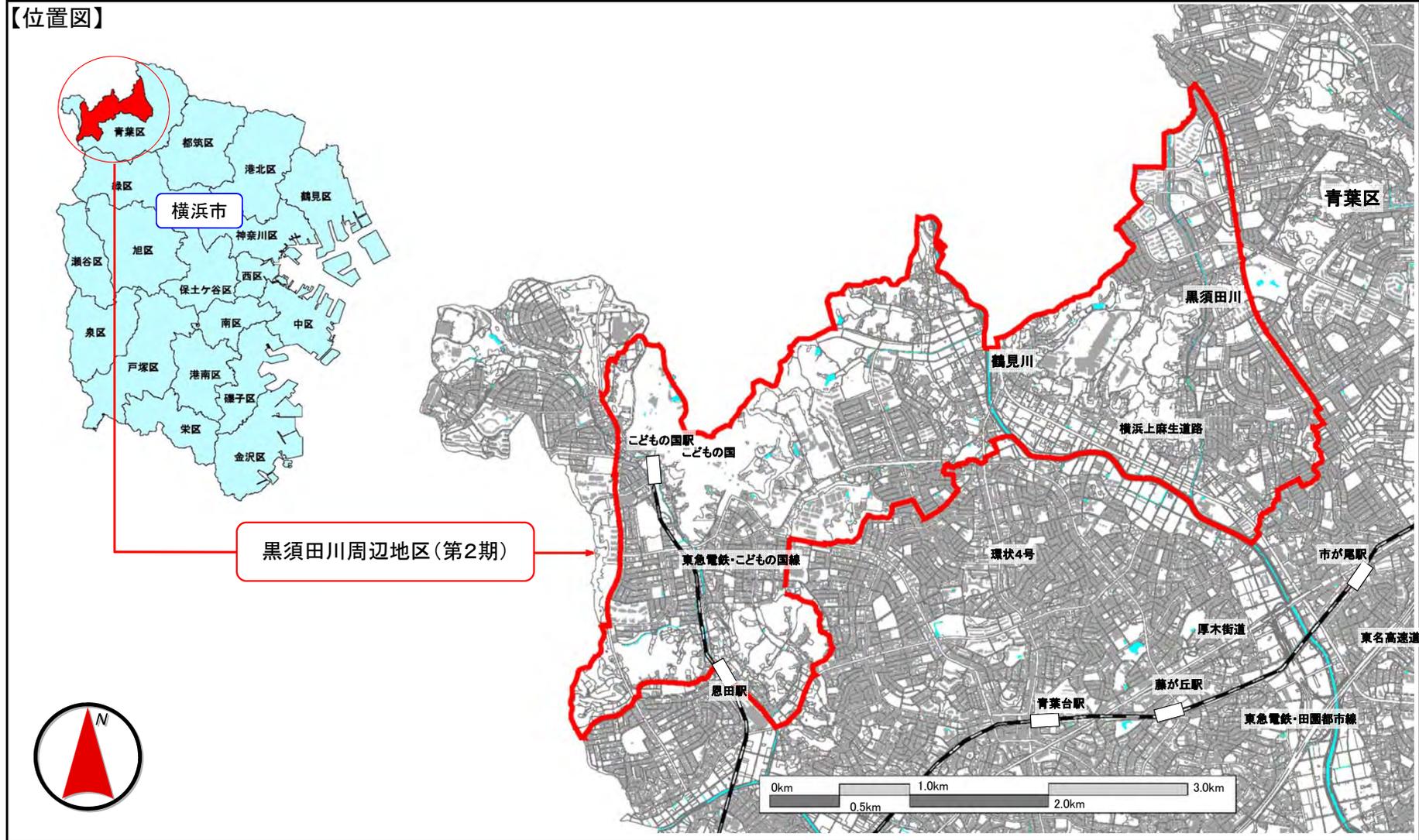
(参考)関連事業														
事業	事業箇所名	事業主体	所管省庁名	規模	(いずれかに○)				事業期間		全体事業費			
					直轄	補助	地方単独	民間	開始年度	終了年度				
合計											0			

合計(A+B) 632

都市再生整備計画の区域

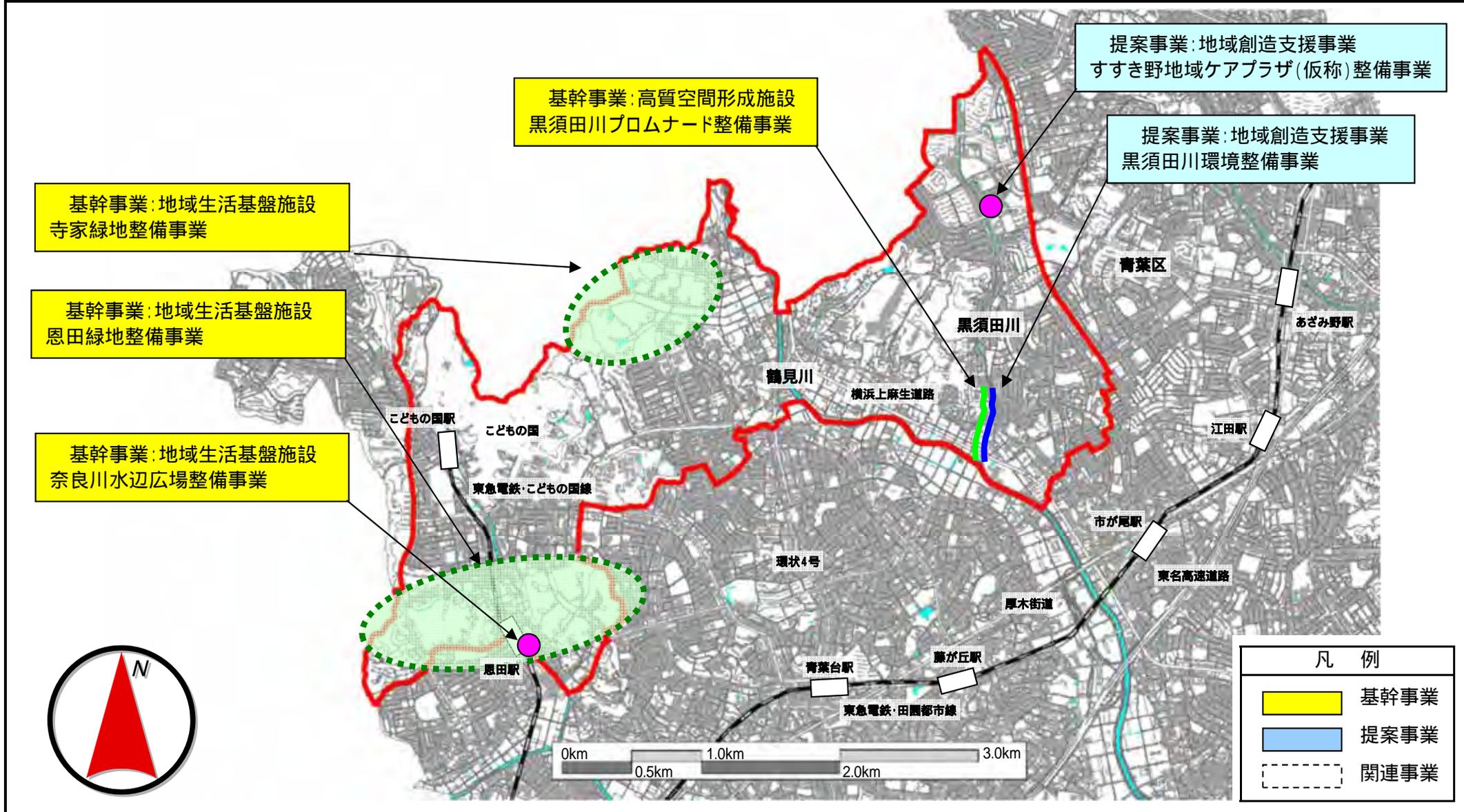
黒須田川周辺地区(第2期)(神奈川県横浜市)	面積 917 ha	区域 横浜市青葉区すすき野、黒須田町、鉄町、寺家町、鴨志田町、もみの木台、奈良一～三丁目 及び 大場町、恩田町、奈良町 の一部 ほか
------------------------	--------------	---

【位置図】



黒須田川周辺地区(第2期)(神奈川県横浜市) 整備方針概要図

目標	川辺のプロムナードや公園、樹林地などが一体となる水と緑のネットワークの拡充を図り、うおいあるまちづくりを推進する。 地区内の緑地を保全するとともに、黒須田川沿いに緑豊かな川辺のプロムナードを整備する。 低水路や親水拠点等、環境整備を推進し、豊かな河川の自然環境を整えることで、親しみやすい河川空間を形成する。 まちづくり計画を市民との協働により実現させる。	代表的な 指標	プロムナード利用者数 (人/10h)	172	(H23年度)	189	(H28年度)
			樹林地の保全面積 (ha)	26.9	(H23年度)	38.2	(H28年度)
			()	()	()	()	



都市再生整備計画(第2回変更)

み ほ にいはるしゅうへん ち く
三保・新治周辺地区

か な がわけん よこ はまし
神奈川県 横浜市

平成27年2月

都市再生整備計画の目標及び計画期間

都道府県名	神奈川県	市町村名	横浜市	地区名	三保・新治周辺地区	面積	657 ha
計画期間	平成 24 年度 ~ 平成 28 年度	交付期間	平成 24 年度 ~ 平成 28 年度				

目標

横浜市の緑の七大拠点の一つ、「三保・新治地区」と梅田川とを結ぶ水と緑のネットワークの構築を目指して、地区内の緑地や水辺、農地、歴史的建造物等の地域資源や水辺の楽校プロジェクト等の資産を最大限に活用しながら、市民と協働して里山の自然環境を楽しみ、体験、学習、交流するための里山空間を保全・創造することで、地域の環境アメニティの向上、レクリエーションの場の創出を図ることで、地域の活性化を促進する。

目標設定の根拠

まちづくりの経緯及び現況

三保・新治地区は、駅から近く、利便性の高い区域での住宅開発が進んでいる一方、横浜の原風景の一つである農と里山の景観が残されている地区です。地区内には市内でも最大級の大規模な緑地があり、横浜市水と緑の基本計画において「緑の7大拠点」に位置づけるとともに、地区の中央を流れる梅田川についても「鶴見川流域水マスタープラン」の中でも骨格となる河川として検討されており、「横浜市都市計画マスタープラン・緑区プラン」でも、これらを水と緑の貴重な環境資源として位置づけられています。このうち、新治地区では、「北の森構想」に基づいて、緑地や農地を一体的に保全しながら地域住民や地域外の市民が里山の自然環境を楽しみ、体験、学習、交流する場として、生態系に配慮した持続可能な自然循環型環境の整備を行うとともに、拠点施設整備による来訪者の増加や農地の活用等による地域の活性化を目指しており新治里山公園等の整備を行っています。さらに、新治地区にある「旧奥津邸」については、歴史的建造物である長屋門等もあることから横浜市が寄附を受けており、この地区の特徴的な里山景観を構成する地域資源として保全しながら整備を行い、これまでイベント等の利用を通じて市民利用の拠点として活用しているところです。また、古くからある若葉台団地においては少子高齢化が進む中で、高齢者や子育て世代が孤立するのではなく、気軽に交流ができる場所や機会が求められています。しかしながら、若葉台地区センターには、エレベーターがないため、バリアフリー化も十分ではなく、高齢者・障害者には不評となっています。

課題

緑地や農地、河川等が一体となった里山空間の保全・創造と地域の活性化が求められている。市民が自然環境を楽しみ、体験、学習、交流するための拠点整備が必要。拠点整備やイベント等の開催による来訪者の増加や農地の活用等による地域の活性化が求められている。

将来ビジョン(中長期)

緑区では、まちづくりの方針を明らかにするにあたり、まちの成り立ちや構造などをふまえて、次の3つの視点でまちづくりを捉えることとしました。
 1. 緑と水のまちづくり 豊かな自然が残る環境は、緑区の大きな特徴であり、魅力でもあります。
 2. 駅周辺のまちづくり JR横浜線各駅の利用圏が、1つのまちのまとまりとなっています。
 3. 生活環境のまちづくり 生活に身近な環境における安全で快適な暮らしの実現を目指します。

緑区「緑と水の回廊」づくりプラン(緑と水のまちづくり方針) 緑豊かな自然環境を区民が連携して支え、次世代に継承していく。

目標を定量化する指標

指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値	基準年度	目標値	
							目標年度
樹林地の保全面積	ha	緑地保全制度による指定面積等	緑地保全制度に指定することにより、緑の減少に歯止めをかけ、環境資源を保全する。	127.3	H23	150.0	H28
にいほる里山交流センター(旧奥津邸)の利用者数	人/年	にいほる里山交流センターでのイベントに参加した人数	水と緑の拠点やネットワーク整備により、市民利用が行われていることで、イベントを通じて地域資源の活用が行われている。	2,009	H22	2,209	H28
地区センター利用満足度	%	地区センター利用者による利用満足度	エレベーター設置による利便性を評価する。	満足・まあ満足(0)	H23	満足・まあ満足(50)	H26

都市再生整備計画の整備方針等

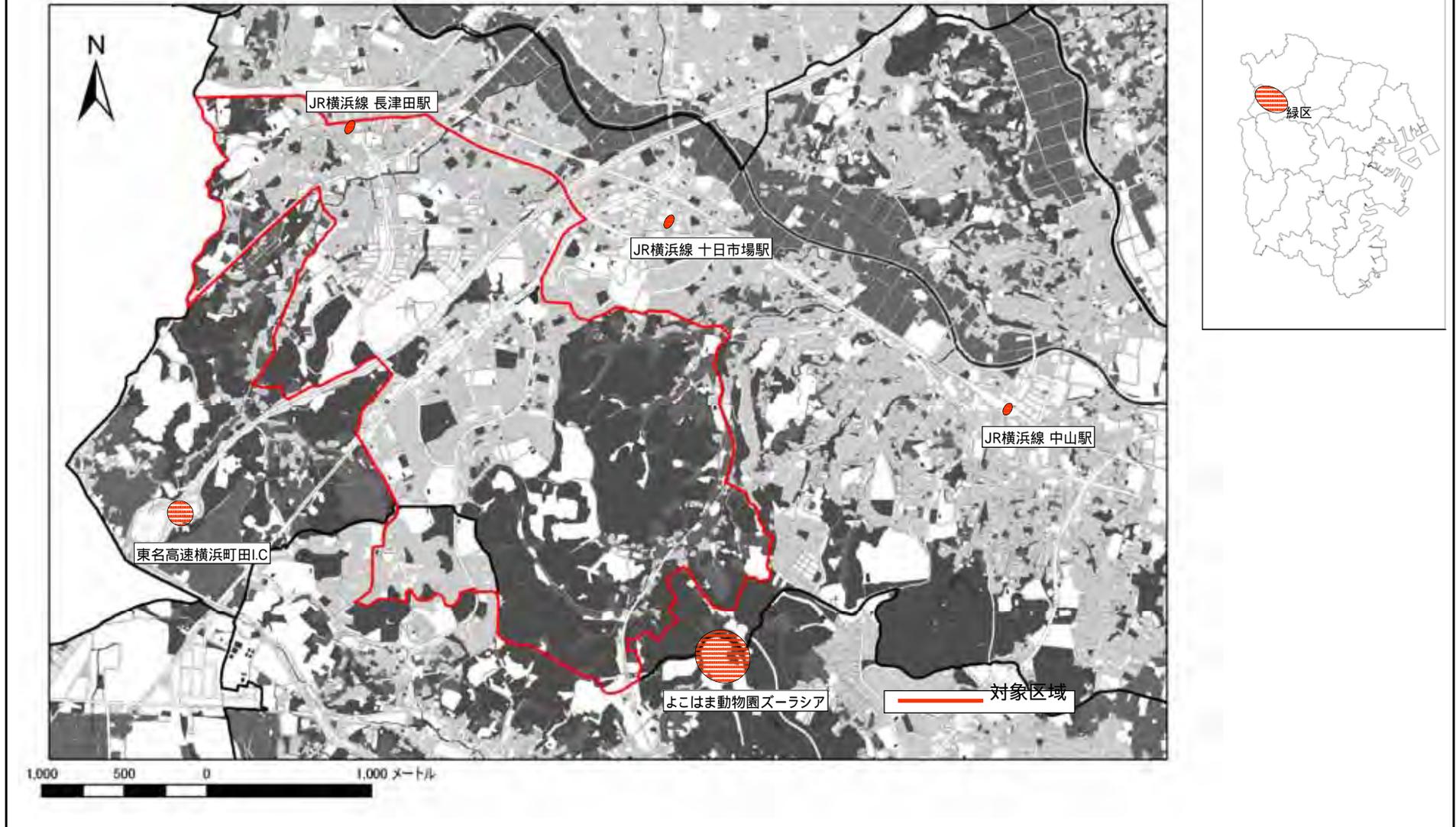
計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<ul style="list-style-type: none"> ・自然的資産を有効に保全・活用する事業 ・自然資源を活かしたまちづくり 	<ul style="list-style-type: none"> ・三保緑地整備事業 ・新治緑地整備事業 ・長津田緑地整備事業
<ul style="list-style-type: none"> ・市民が里山の自然環境を楽しみ、体験、学習、交流するとともに地域の活性化にも資する拠点等を整備する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新治里山公園整備事業
<ul style="list-style-type: none"> ・若葉台地区センターにエレベーターを設置し、利用者の利便性を向上し利用促進する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・若葉台地区センターエレベーター設置

その他

都市再生整備計画の区域

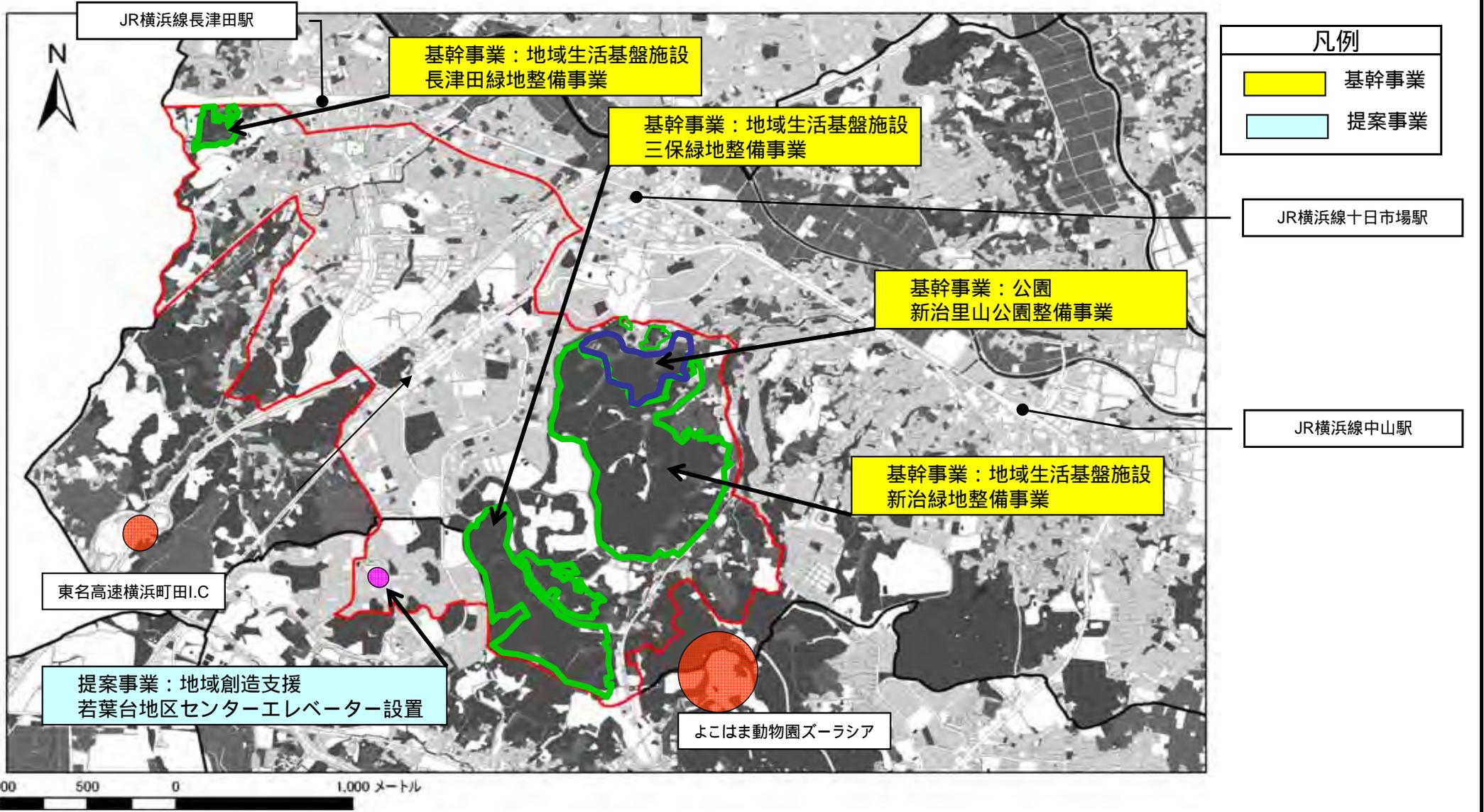
<p>三保・新治周辺地区(神奈川県横浜市)</p>	<p>面積 657 ha</p>	<p>区域 横浜市緑区いぶき野、霧が丘一丁目、霧が丘二丁目、霧が丘三丁目、霧が丘四丁目、霧が丘五丁目、霧が丘六丁目、十日市場町、長津田町、長津田六丁目、長津田七丁目、新治町、三保町、旭区若葉台一丁目一部、若葉台二丁目一部、若葉台三丁目一部</p>
---------------------------	------------------	---

計画区域が分かるような図面を添付すること。



三保・新治周辺地区(神奈川県横浜市)整備方針概要図

目標	横浜市の緑の七大拠点の一つ、「三保・新治地区」の水・緑環境を守り、次世代へ引き継ぐため、水・緑資源を保全、育成するとともに、市民が、里山を楽しみ、体験し、学び、里山を舞台とした交流を深める場づくりを進める。	代表的な指標	樹林地の保全面積 (ha)	127.3 (平成23年度)	150.0 (28年度)
			交流センターの利用者数 (人/年)	2,009 (平成22年度)	2,209 (28年度)
			地区センター利用満足度 (%)	0 (平成23年度)	50 (26年度)



都市再生整備計画(第2回変更)

きたてらお ししがやしゅうへんちく
北寺尾・獅子ヶ谷周辺地区

かながわけん よこはまし
神奈川県 横浜市

平成27年2月

都市再生整備計画の目標及び計画期間

都道府県名	神奈川県	市町村名	横浜市	地区名	北寺尾・獅子ヶ谷周辺地区	面積	943 ha
計画期間	平成 24 年度 ~ 平成 28 年度	交付期間	平成 24 年度 ~ 平成 28 年度				

目標
 地区内の限られた緑地や歴史的建造物等の地域資源を最大限に活用しながら、自然環境を楽しみ、体験、学習、交流するための空間を保全・創造するとともに、地域の環境アメニティの向上、レクリエーションの場の創出を図ることで、地域の活性化を促進する。
 また、これら貴重な環境資源の保全に努め、豊かな緑を次世代に継承し、身近に自然とふれあえ、潤いを感じられる生活環境を守る。

目標設定の根拠
 まちづくりの経緯及び現況
 まちづくりの経緯:「鶴見のまちづくり」(横浜市都市計画マスタープラン・鶴見区プラン)を平成14年5月に策定
 このプランのテーマの1つに
 自然環境を活用する ~ 鶴見川を活かしたまちづくり
 公園・緑地、残された自然資源や歴史資源の活用、災害に強いまちづくり、環境に配慮したまちづくり等を鶴見川の活用を軸に進めます。
 「農地・樹林地を保全・回復し、活用する」
 神奈川県や港北区等と連携して、三ツ池公園、獅子ヶ谷市民の森、かぶと塚・東寺尾・駒岡のふれあいの樹林、総持寺の緑地等を保全・回復します。
 災害時に備えた公共施設の耐震化
 市の防災計画において、災害時の避難場所に指定されている菊名地区センター・港北図書館(合築)は耐震診断の耐震性能ランクではBとなっており、耐震補強工事が必要となります。

課題
 貴重な緑の保全に努め、豊かな緑を次世代に継承していく必要がある。
 市民が自然環境を楽しみ、体験、学習、交流するための拠点整備が必要。
 拠点整備やイベント等の開催による来訪者の増加等地域の活性化が求められている。
 耐震補強工事が必要な施設の耐震化が求められている。

将来ビジョン(中長期)
 自然環境の保全
 区全体がほぼ市街化された状況であり、残された緑地やオープンスペース等自然環境の保全を進めるとともに、公園・緑地の整備を進めます。
 公共施設の耐震化
 平成27年度までに多数の者が利用する建築物(港北図書館・菊名地区センター)について耐震化を進めています。

目標を定量化する指標

指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値		目標値	
					基準年度		目標年度
樹林地の保全面積	ha	緑地保全制度による指定面積等	緑地保全制度に指定することにより、緑の減少に歯止めをかけ、環境資源を保全する。	45.2	H23	49.5	H28
馬場花木園 来園者数	人/年	植物庭園・休憩施設(茶室等)の利用者数及びイベントの参加者数	既存の公園を拡張整備することで、明るく利用しやすい環境を創り出し、活発な市民交流の通じ地域の活性化を図る。	41,685	H22	42,101	H28
図書館・地区センター利用者の安全・利便の満足度	%	図書館・地区センター利用者の安全・利便の満足度	耐震等工事による、施設利用者の安全・利便性を評価する。	満足・まあ満足(0)	H24	満足・まあ満足(50)	H27

都市再生整備計画の整備方針等

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<ul style="list-style-type: none"> ・自然的資産を有効に保全・活用する事業 ・自然資源を活かしたまちづくり 	<ul style="list-style-type: none"> ・駒岡・梶山緑地整備事業 ・馬場四丁目緑地整備事業 ・北寺尾緑地整備事業 ・獅子ヶ谷・師岡緑地整備事業 ・東寺尾緑地整備事業 ・熊野神社緑地整備事業
<ul style="list-style-type: none"> ・市民が自然環境を楽しみ、体験、学習、交流するとともに地域の活性化にも資する拠点等を整備する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・馬場花木園整備事業 ・二ツ池公園整備事業
<ul style="list-style-type: none"> 港北図書館・菊名地区センターの耐震補強工事を行い、利用者の安全を確保する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・耐震補強工事(港北図書館・菊名地区センター)
<p>その他</p>	

交付対象事業等一覧表

北寺尾・獅子ヶ谷周辺地区(神奈川県横浜市)

交付対象事業費	3,393	交付限度額	1357.2	国費率	0.4
うち、社会資本整備総合交付金対象事業 計	3,377	うち、社会資本整備総合交付金対象事業 計	1350.8		
うち、地域自主戦略交付金対象事業 計	16	うち、地域自主戦略交付金対象事業 計	6.4		

(金額の単位は百万円)

事業	細項目	事業箇所名	事業主体	直/間	規模	(参考)事業期間		交付期間内事業期間		(参考)全体事業費	交付期間内事業費	うち		交付対象事業費	
						開始年度	終了年度	開始年度	終了年度			うち	うち		
道路															
公園		馬場花木園整備事業	横浜市	直	2ha	平成27年度	平成28年度	平成27年度	平成28年度	369	369	369		369	
		二ツ池公園整備事業	横浜市	直	3ha	平成24年度	平成28年度	平成25年度	平成28年度	409	393	393	393	393	
河川															
下水道															
駐車場有効利用システム															
地域生活基盤施設		駒岡・梶山緑地整備事業	横浜市	直	2.9ha	平成25年度	平成25年度	平成25年度	平成25年度	31	31	31		31	
地域生活基盤施設		馬場四丁目緑地整備事業	横浜市	直	0.8ha	平成24年度	平成26年度	平成24年度	平成26年度	788	788	788		788	
地域生活基盤施設		北寺尾緑地整備事業	横浜市	直	1.0ha	平成25年度	平成25年度	平成25年度	平成25年度	532	532	532		532	
地域生活基盤施設		獅子ヶ谷・節岡緑地整備事業	横浜市	直	19.9ha	平成24年度	平成26年度	平成24年度	平成26年度	323	323	323		323	
地域生活基盤施設		東寺尾緑地整備事業	横浜市	直	1.8ha	平成25年度	平成26年度	平成25年度	平成26年度	501	501	501		501	
地域生活基盤施設		熊野神社緑地整備事業	横浜市	直	5.3ha	平成24年度	平成24年度	平成24年度	平成24年度	137	137	137		137	
高質空間形成施設															
高次都市施設															
既存建造物活用事業															
土地区画整理事業															
市街地再開発事業															
住宅街区整備事業															
地区再開発事業															
バリアフリー環境整備促進事業															
優良建築物等整備事業															
住宅市街地総合整備事業	拠点開発型														
	沿道等整備型														
	密集住宅市街地整備型														
	耐震改修促進型														
街なみ環境整備事業															
住宅地区改良事業等															
都心共同住宅供給事業															
公営住宅等整備															
都市再生住宅等整備															
防災街区整備事業															
合計										3,090	3,074	3,074	0	3,074	…A'

基幹事業②地域自主戦略交付金

事業	細項目	事業箇所名	事業主体	直/間	規模	(参考)事業期間		交付期間内事業期間		(参考)全体事業費	交付期間内事業費	うち		交付対象事業費	
						開始年度	終了年度	開始年度	終了年度			うち	うち		
道路															
公園		二ツ池公園整備事業	横浜市	直	3ha	平成24年度	平成28年度	平成24年度	平成24年度	409	16	16		16	
河川															
下水道															
合計										409	16	16	0	16	…A''

※交付期間内事業期間は平成24年度以降を記載

※H24以降を記載

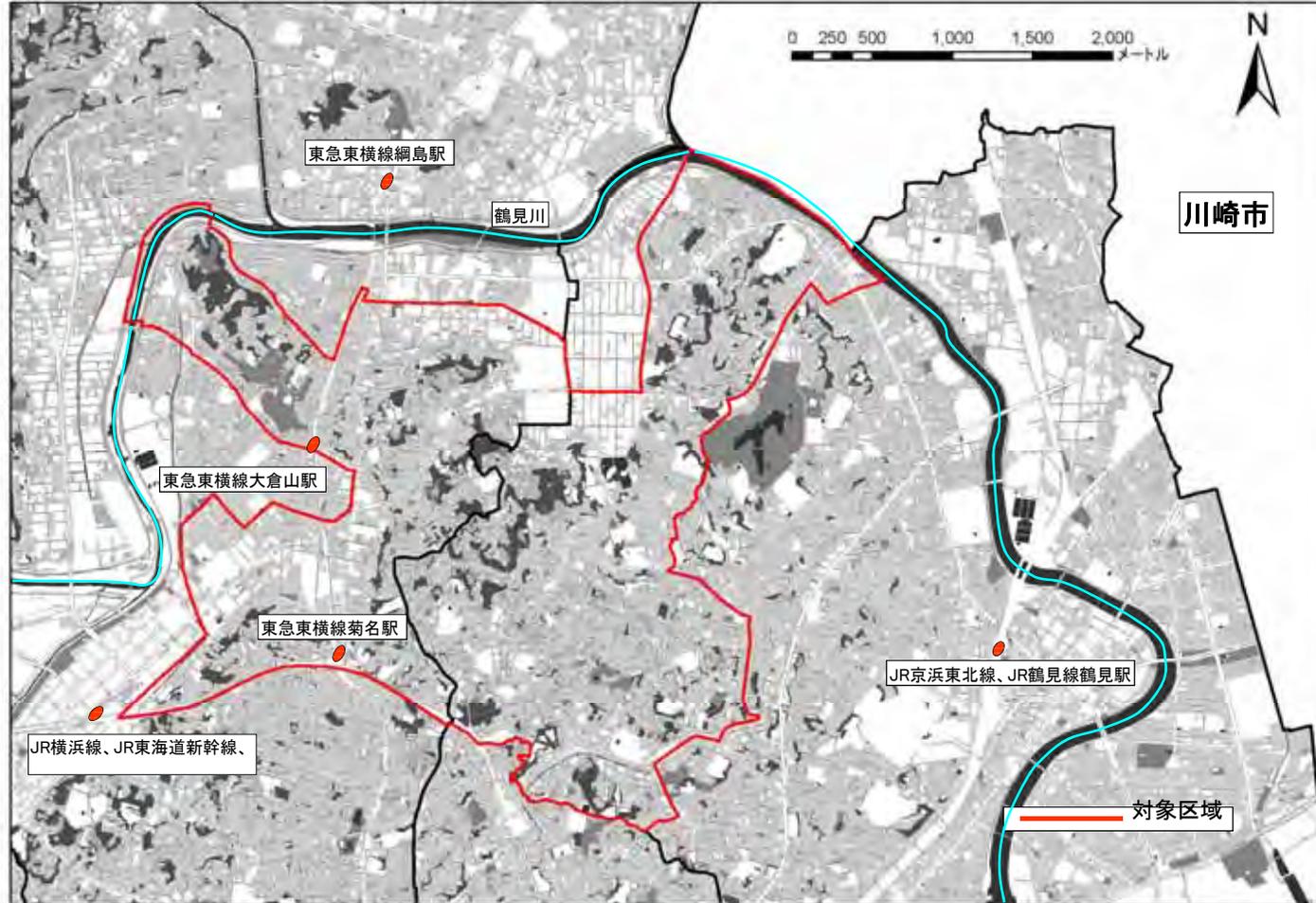
※H24以降分を記載

基幹事業 総計(①+②)

総計											3,090	3,090	0	3,090	…A=A'+A''
----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	-------	-------	---	-------	-----------

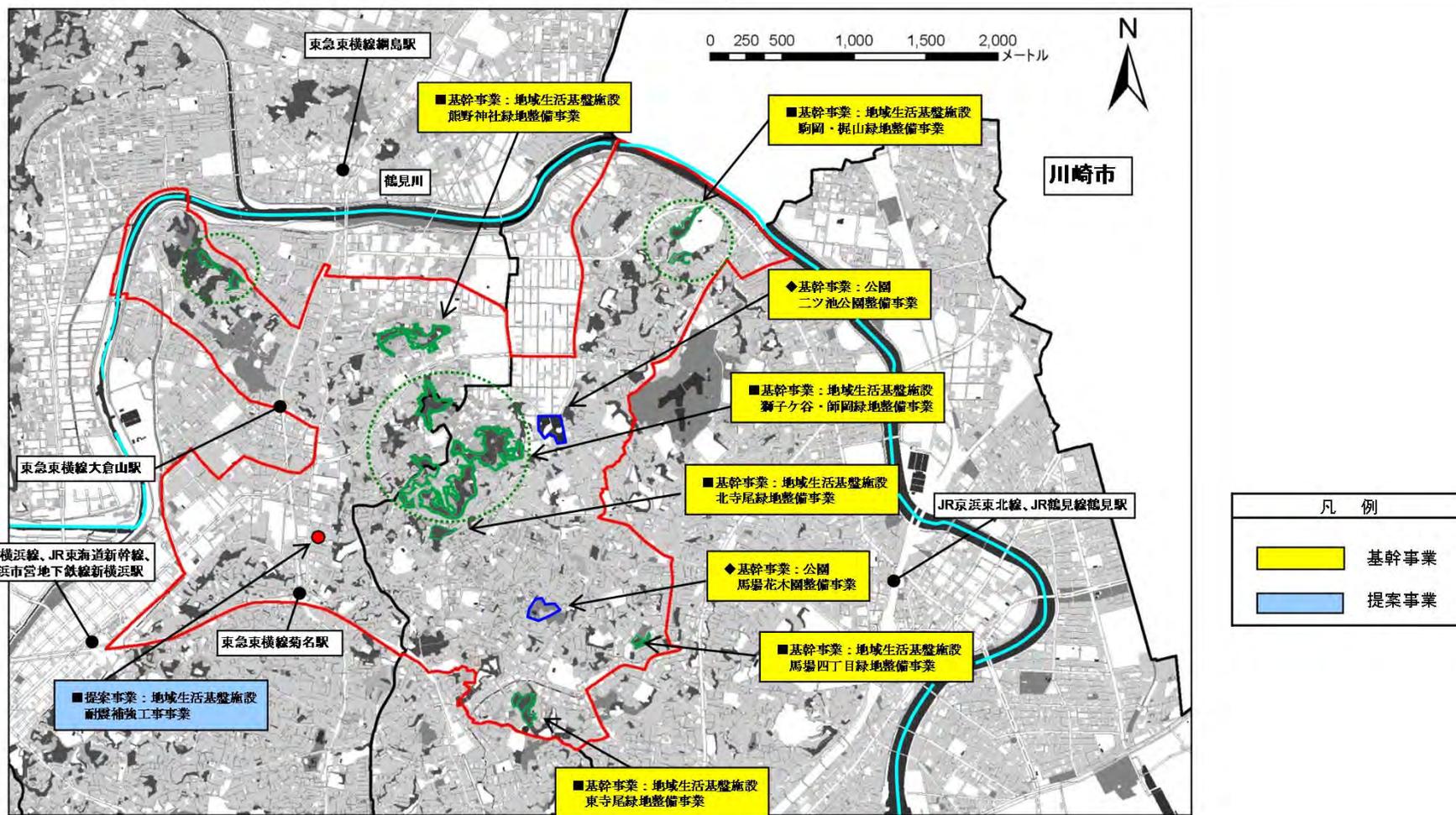
都市再生整備計画の区域

<p>北寺尾・獅子ヶ谷周辺地区(神奈川県横浜市)</p>	<p>面積</p>	<p>943 ha</p>	<p>区域 横浜市鶴見区榎山二丁目、上末吉五丁目、上の宮一丁目、上の宮二丁目、北寺尾五丁目、北寺尾六丁目、北寺尾七丁目、駒岡一丁目、駒岡三丁目、駒岡四丁目、獅子ヶ谷一丁目、獅子ヶ谷二丁目、獅子ヶ谷三丁目、馬場一丁目、馬場二丁目、馬場三丁目、馬場四丁目、馬場五丁目、馬場六丁目、馬場七丁目、東寺尾一丁目、港北区大曽根一丁目、大曽根台、菊名四丁目、菊名五丁目、菊名六丁目、菊名七丁目、篠原北二丁目、榎町一丁目、榎町四丁目、太尾町の一部※大倉山の一部を含む、大豆戸町、大豆戸町の一部、師岡町、篠原町の一部</p>
------------------------------	-----------	---------------	---



北寺尾・獅子ヶ谷周辺地区(神奈川県横浜市)整備方針概要図

目標	限られた緑地や歴史的建造物等の地域資源を最大限に活用しながら、地域の環境アメニティの向上、レクリエーションの場の創出を図ることで、地域の活性化を促進する。	代表的な指標	樹林地の保全面積 (ha)	45.2	(平成23年度)	→	49.5	(28年度)
			馬場花木園 来園者数 (人/年)	41,685	(平成22年度)	→	42,101	(28年度)
			図書館・地区センター利用者の安全・利便の満足度(%)	0	(平成24年度)	→	50	(27年度)



都市再生整備計画(第1回変更)

い い じ ま かな い し ゅ う へ ん ち く
飯島・金井周辺地区

か な が わ け ん よ こ は ま し
神奈川県 横浜市

平成27年2月

都市再生整備計画の目標及び計画期間

都道府県名	神奈川県	市町村名	横浜市	地区名	飯島・金井周辺地区	面積	331 ha
計画期間	平成 24 年度 ~ 平成 28 年度	交付期間	平成 24 年度 ~ 平成 26 年度				

目標
 横浜市の緑の七大拠点の「舞岡・野庭」及び「円海山周辺」と隣接しており、これらまとまりのある貴重な緑の保全に努め、豊かな緑を次世代に継承し、身近に自然とふれあえ、潤いを感じられる生活環境を守る。

目標設定の根拠
 まちづくりの経緯及び現況
 飯島・金井周辺地区は、駅から近く、利便性の高い区域での住宅開発が進んでいるが、平成21年度から「横浜みどり税」による安定的な財源を活用して、「横浜みどりアップ計画」を着実に進め、市域のみどりの減少に歯止めをかけ、緑豊かなまち横浜を次世代に継承していくことが横浜市全体としても重要な課題となっています。
 また、地区内には、緑地のほかに柏尾川流域に位置する金井公園は、野球場、テニスコートや多目的広場を有し、市民の憩いの場となっています。

課題
 貴重な緑の保全に努め、豊かな緑を次世代に継承していく必要がある。
 市民が自然環境を楽しみ、体験、学習、交流するための拠点整備が必要。
 昭和56年に開園した金井公園は、公園施設の老朽化が著しく、バリアフリー化が図られていない。

将来ビジョン(中長期)
 栄区プランでは、「次世代に継承する緑豊かな生活文化都市」を基本理念に、円海山やいたち川を始めとした豊かな自然環境、静かで落ち着いた生活環境、そして、これまで培われてきた区民の多様な文化活動などを、未来を担うべき次世代に伝えるとともに、だれもがこのまちに愛着を持ち、暮らし続けたいと思えるような、魅力あふれる栄区にしたいとの願いが込められています。
 この目標の一つに「自然に囲まれた生活ができるまちづくり」として、緑、水環境の保全・整備や、緑地、公園、河川等のネットワーク化により、いつまでも自然に囲まれた生活ができるまちを目指しています。

目標を定量化する指標

指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値	目標値	
				基準年度	目標年度	
樹林地の保全面積	ha	緑地保全制度による指定面積等	緑地保全制度に指定することにより、緑の減少に歯止めをかけ、環境資源を保全する。	11.7	H23	H28
金井公園有料施設利用者数	人/年	野球場及びテニスコートの利用者数	既存の公園を再整備することで、明るく利用しやすい環境を創り出し、活発な市民交流の通じ地域の活性化を図る。	32,419	H22	H27

都市再生整備計画の整備方針等

飯島・金井周辺地区(神奈川県横浜市)

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<ul style="list-style-type: none"> ・自然的資産を有効に保全・活用する事業 ・自然資源を活かしたまちづくり 	<ul style="list-style-type: none"> ・飯島町緑地整備事業
<ul style="list-style-type: none"> ・公園施設の更新及びバリアフリー化により地域コミュニティの充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・金井公園再整備事業

その他

交付対象事業等一覧表

飯島・金井周辺地区(神奈川県横浜市)

交付対象事業費	3,174	交付限度額	1269.6	国費率	0.4
うち、社会資本整備総合交付金対象事業 計	3,158	うち、社会資本整備総合交付金対象事業 計	1263.2		
うち、地域自主戦略交付金対象事業 計	16	うち、地域自主戦略交付金対象事業 計	6.4		

(金額の単位は百万円)

基幹事業 社会資本整備総合交付金

事業	細項目	事業箇所名	事業主体	直/間	規模	(参考)事業期間		交付期間内事業期間		(参考)全体事業費	交付期間内事業費	うち官負担分	うち民負担分	交付対象事業費
						開始年度	終了年度	開始年度	終了年度					
道路														
公園		金井公園再整備事業	横浜市	直	4.9ha	平成21年度	平成26年度	平成25年度	平成26年度	290	59	59		59
		古都及び緑地保全事業												
河川														
		下水道	-		-									
		駐車場有効利用システム	-		-									
地域生活基盤施設		飯島町緑地整備事業	横浜市	直	6ha	平成24年度	平成26年度	平成24年度	平成26年度	3,099	3,099	3,099		3,099
		高質空間形成施設	-		-									
		高次都市施設	-		-									
既存建造物活用事業														
土地区画整理事業														
市街地再開発事業														
住宅街区整備事業														
地区再開発事業														
バリアフリー環境整備促進事業														
優良建築物等整備事業														
		拠点開発型												
住宅市街地総合整備事業		沿道等整備型												
		密集住宅市街地整備型												
		耐震改修促進型												
街なみ環境整備事業														
住宅地区改良事業等														
都心共同住宅供給事業														
公営住宅等整備														
都市再生住宅等整備														
防災街区整備事業														
合計										3,389	3,158	3,158	0	3,158

...A'

基幹事業 地域自主戦略交付金

事業	細項目	事業箇所名	事業主体	直/間	規模	(参考)事業期間		交付期間内事業期間		(参考)全体事業費	交付期間内事業費	うち官負担分	うち民負担分	交付対象事業費
						開始年度	終了年度	開始年度	終了年度					
道路														
公園		金井公園再整備事業	横浜市	直	4.9ha	平成21年度	平成26年度	平成24年度	平成24年度	290	16	16		16
河川														
下水道														
合計										290	16	16	0	16

...A''

交付期間内事業期間は平成24年度以降を記載

H24以降を記載

H24以降分を記載

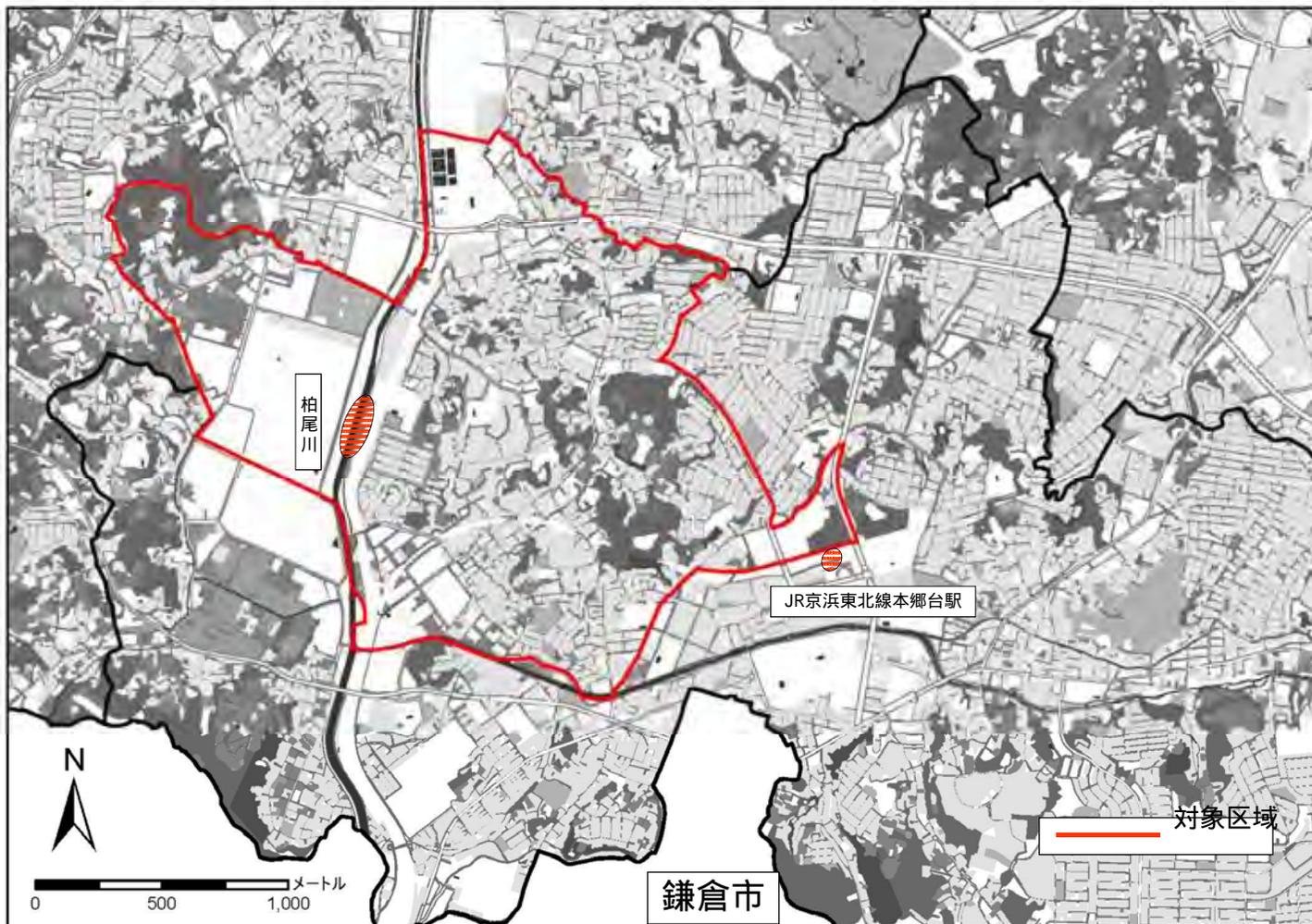
基幹事業 総計 (- +)

総計											3,174	3,174	0	3,174
----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	-------	-------	---	-------

...A=A'+A''

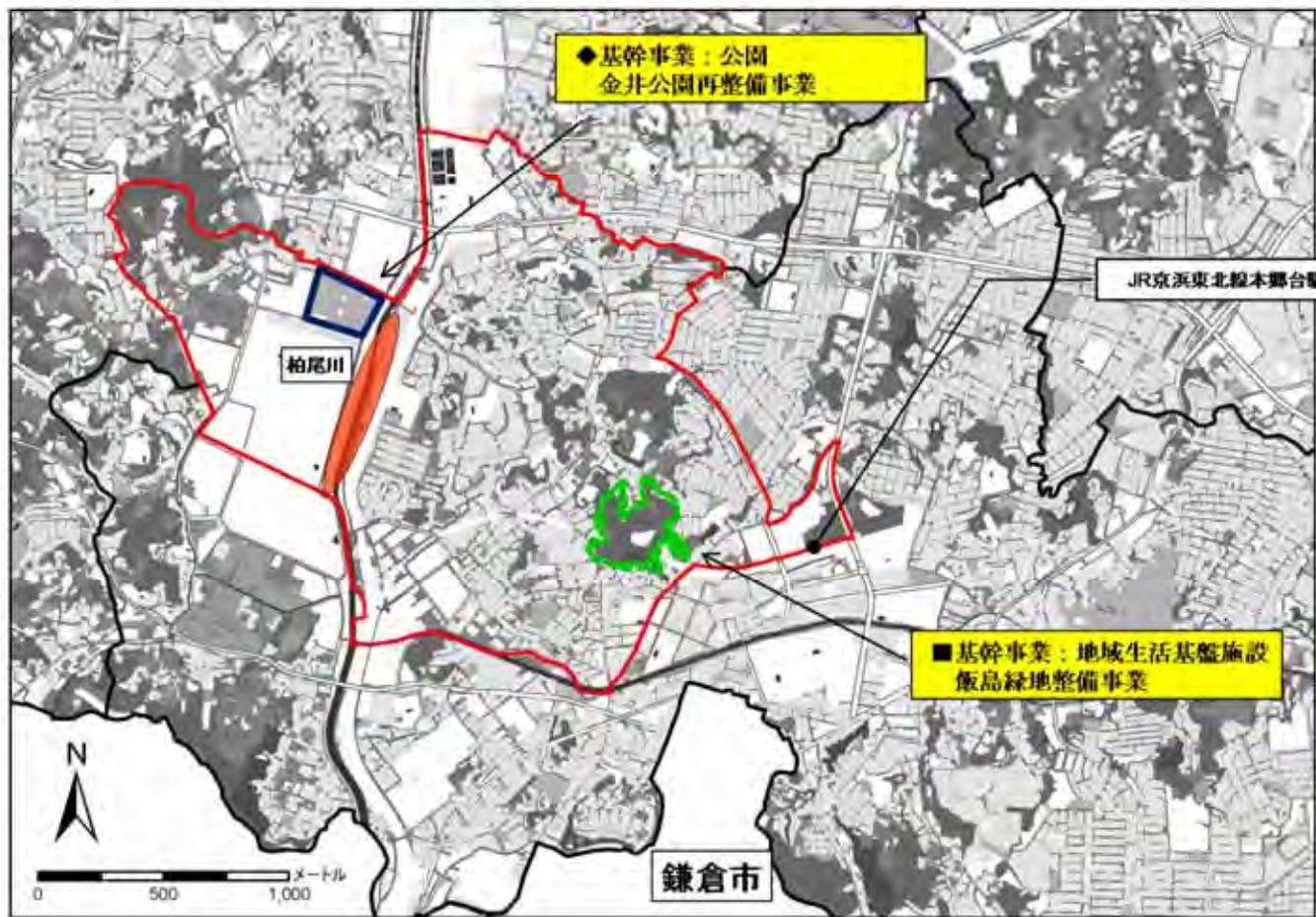
都市再生整備計画の区域

飯島・金井周辺地区(神奈川県横浜市)	面積 331 ha	区域 横浜市栄区金井町、長沼町、飯島町、小菅ヶ谷町、小菅ヶ谷町二丁目、本郷台二丁目
--------------------	-----------	---



飯島・金井周辺地区(神奈川県横浜市)整備方針概要図

目標	まとものある貴重な緑の保全に努め、豊かな緑を次世代に継承し、身近に自然とふれあえ、潤いを感じられる生活環境を守る。	代表的な指標	樹林地の保全面積 (ha)	11.7 (平成23年度)	→	18.5 (28年度)
			金井公園有料施設利用者数 (人/年)	32,419 (平成22年度)	→	32,743 (28年度)



凡例	
	基幹事業